

本書について

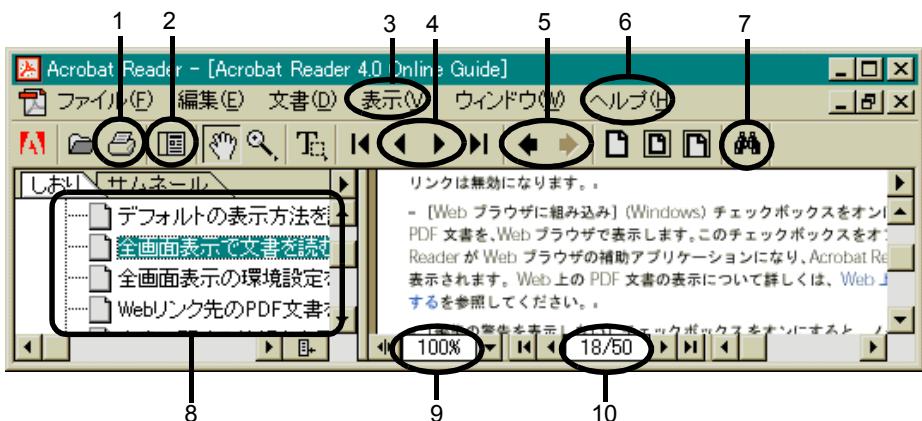
本書では、周辺機器の増設や、BIOS セットアップの操作方法など、ハードウェアに関する技術的な情報を説明しています。作業を行う場合は、本書の必要なページを印刷してご覧いただくことをお勧めします。

プリンタの接続については、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。なお、本パソコンでプリンタをお使いになるうえでの注意事項がありますので、「USB プリンタの接続」(☞P.49) または「プリンタの接続」(☞P.73) もあわせてご覧ください。

本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)

ここでは、基本的なボタンの機能について説明します。

Acrobat Reader の使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。



- 1 文書を印刷します。プリンタ名、印刷範囲、印刷部数などを指定し、「OK」をクリックします。ページ範囲を指定するときには、ウィンドウの最下行に「1/5」などと表示されているページ数を指定してください。マニュアルのページ表記と違う場合がありますので、ご注意ください。
- 2 しおり／サムネールを表示または非表示にします。
- 3 文書の表示倍率などを設定します。
- 4 ◀で前のページに戻ります。
▶で次のページに進みます。
- 5 ◀で今まで表示した画面を逆戻りします。
▶でいったん逆戻りした画面を、一画面ずつ進めます。
- 6 Acrobat Reader のヘルプを表示します。「ヘルプ」メニュー→「Reader Guide」の順にクリックします。
- 7 キーワードを入力して文書内を検索できます。現在表示されているページから検索が始まります。
- 8 しおりの中から見たいタイトルをクリックすると、そのページを表示できます。
- 9 拡大または縮小率を選択できます。
- 10 全ページ数と表示しているページ数を表示します。

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本書では、いろいろな絵表示を使用しています。これは装置を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。

コマンド入力（キー入力）について

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

画面例およびイラストについて

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が異なる場合があります。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version 4.0	WindowsNT
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader
FMV-BIBLO MC4/45C	本パソコン

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の登録商標です。

Pume Technology、Intellisync は米国プーマテクノロジー社の商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

CD-ROM ドライブユニットの取扱説明書について

本パソコンに添付の CD-ROM ドライブユニットについては、次の取扱説明書に詳しい説明が記載されています。本書とあわせてご覧ください。

- ...▶「CD-ROM ドライブユニット取扱説明書」

内蔵モデムの取扱説明書について

本パソコンの内蔵モデムについては、次の取扱説明書に詳しい説明が記載されています。本書とあわせてご覧ください。

- ...▶「内蔵モデム取扱説明書」

目次

本書について	1
本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)	1
本書の表記について	2
CD-ROM ドライブユニットの取扱説明書について	4
内蔵モデムの取扱説明書について	4

第1章 はじめに

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体右側面	12
パソコン本体左側面	14
パソコン本体背面	16
パソコン本体下面	16
FDD ユニット	17
コネクタボックス	18
2 状態表示 LCD について	20
3 キーボードについて	22
主なキーの名称とはたらき	22
テンキーモードについて	24
4 スタンバイ／休止状態について	25
スタンバイと休止状態	25
スタンバイする	26
休止状態にする	30
5 バッテリについて	32
充電する	32
バッテリで使う	33
残量を確認する	34
LOW バッテリ状態	35
バッテリの注意	36
内蔵バッテリパックを交換する	37
6 液晶ディスプレイの明るさを変更する	39
明るさを設定する	39
設定した明るさを変更する	39
7 画面の解像度と発色数について	40
表示できる解像度と発色数	40
解像度や発色数を変更する	41
ローテーション機能を使う	43

第2章 ハードウェアについて

1 周辺機器を取り付ける前に	46
使用できる周辺機器	46
周辺機器について	47
2 USB 規格対応の機器を使う	48
FDD ユニット (USB) の接続	48
USB マウスの接続	48
USB プリンタの接続	49
3 携帯電話や PHS を接続する	51
携帯電話／PHS で通信をするときの注意	51
USB コネクタに接続する	52
携帯電話や PHS 用のモデムを選択する	54
4 CCD カメラを使う	55
CCD カメラを取り付ける	55
5 PC カードを使う	58
PC カードを使うときの注意	58
必要なものを用意する	58
PC カードをセットする	59
PC カードを取り出す	61
6 メモリを増やす	63
必要なものを用意する	63
メモリを取り付ける／取り外す	64
7 コネクタボックスについて	68
コネクタボックスを取り付ける	68
コネクタボックスを取り外す	69
マウスの接続	70
テンキーボードの接続	71
プリンタの接続	72
8 外部ディスプレイを接続する	75
必要なものを用意する	75
外部ディスプレイを接続する	75
ディスプレイの表示を切り替える	77
外部ディスプレイの解像度と発色数について	80
リフレッシュレートを変更する	81
マルチモニタ機能を使う	82

第3章 BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは	86
2 BIOS セットアップの操作のしかた	87
BIOS セットアップを起動する	87
設定を変更する	88
各キーの役割	89
変更内容を取り消す	90
BIOS セットアップを終了する	91
3 ご購入時の設定に戻す	92
4 メニュー詳細	93
メインメニュー	93
詳細メニュー	94
セキュリティメニュー	97
省電力メニュー	98
起動メニュー	100
情報メニュー	101
終了メニュー	101
5 BIOS のパスワード機能を使う	102
パスワードの種類	102
パスワードを設定する	102
パスワードを変更する／削除する	104
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	105
メッセージが表示されたときは	105
メッセージ一覧	106

第4章 技術情報

1 ハードウェアのお手入れ	112
パソコン本体のお手入れ	112
フロッピーディスクドライブのお手入れ	112
廃棄について	113
2 Save To Disk 領域	114
Save To Disk 領域について	114
Save To Disk 領域の容量	114
Save To Disk 領域を変更する	115
3 赤外線通信について	118
赤外線通信の概要	118
Intellisync	118
制限事項	120
4 省電力の設定	121
ご購入時の節電の設定	121
「電源の管理」で設定を変更する	121
PMSet98 で設定を変更する	123
5 外部ディスプレイの走査周波数	125
外部ディスプレイ表示のみの場合	125
同時表示の場合	126
6 音量の設定について	127
再生時の音量設定	127
録音時の音量設定	128
7 その他の注意事項	129
ポインティングデバイスについて	129
FDD ユニット (USB) / フロッピーディスクユニットについて	130
索引	131

1

第1章

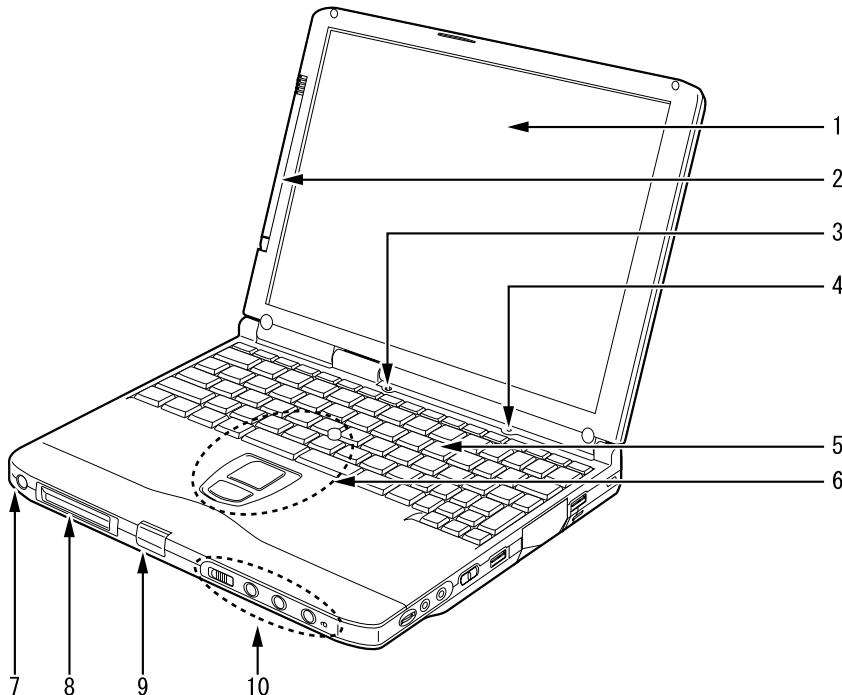
はじめに

各部の名称と働きや省電力機能など、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 各部の名称と働き	10
2 状態表示 LCD について	20
3 キーボードについて	22
4 スタンバイ／休止状態について	25
5 バッテリについて	32
6 液晶ディスプレイの明るさを変更する	39
7 画面の解像度と発色数について	40

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面



1 液晶ディスプレイ（タッチパネル）

本パソコンの画面を表示します。

また、タッチパネルが貼り付けられています。

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・本パソコンのTFTカラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上（解像度1024×768の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
 - ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。
- また、液晶ディスプレイの特質上、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

2 ペン

タッチパネルを操作するペンが収納されています。

3 カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを開閉したときに、本パソコンをスタンバイ（一時停止）／レジューム（再開）させたり、液晶ディスプレイのバックライトを消灯させたりするためのスイッチです。

「スタンバイ／休止状態について」（[..▶ P.25](#)）

4 内蔵マイク

音声（モノラル）を録音できます。

 **POINT**

- ▶ カラオケソフトなど、マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調節するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していない場合は、マイクを「ミュート」（消音）にしてください。
- ▶ 内蔵マイクをお使いの場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。ハウリングを起こす場合があります。
- ▶ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

5 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「キーボードについて」（[..▶ P.22](#)）

6 クイックポイントIV

マウスポインタを操作します。

7 SUS/RES（サスレス）スイッチ

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（一時停止）／レジューム（再開）させるためのスイッチです。

「スタンバイ／休止状態について」（[..▶ P.25](#)）

8 状態表示 LCD（エルシーディー）

本パソコンの状態が表示されます。

9 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、押してロックを外します。

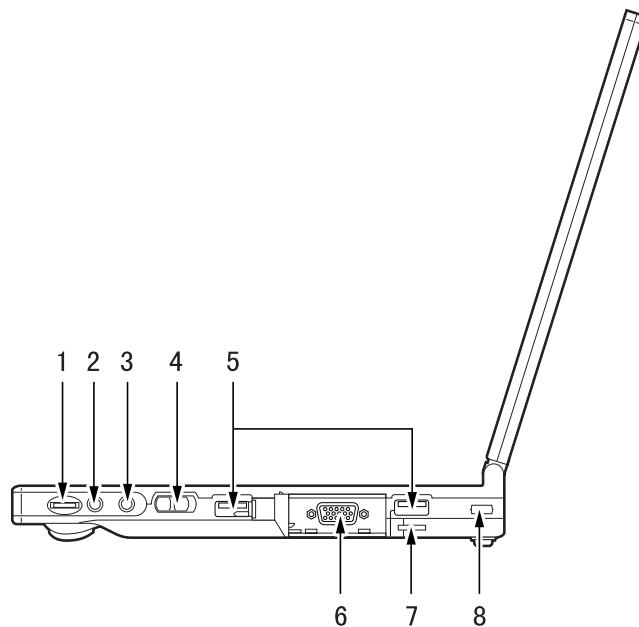
10 ワンタッチボタン

アプリケーションを起動したり、新着 E メールを受信したりするボタンです。

 **POINT**

- ▶ ワンタッチボタンを使用する場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

パソコン本体右側面



⚠ 注意

聴力障害

- 接続した機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



ヘッドホン・ジャック、マイクイン・ジャックに接続するときは、パソコン本体の音量ボリュームを最小にしてから接続してください。

1 音量ボリューム

音量を調節します。手前側に回すと小さく、奥側に回すと大きくなります。音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで [Fn] を押しながら [F3] を押してください。また、「録音コントロール」ダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

音声入出力時のバランスや音量などは、「録音コントロール」ダイアログボックスで設定できます。音量ボリュームを最大にしても音量が不足する場合は、「録音コントロール」ダイアログボックスで調整してください。

「音量の設定について」 (..▶ P.127)

2 ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意

聴力障害



聴力障害



- ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となります。
- ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となります。

3 マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

4 MAIN（メイン）スイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。

5 USB（ユーエスピー）コネクタ

FDD ユニット（USB）（…▶ P.17）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

「USB 規格対応の機器を使う」（…▶ P.48）

6 外部ディスプレイコネクタ

別売の CRT（シーアールティー）ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「外部ディスプレイを接続する」（…▶ P.75）

7 CCD カメラ接続スリット

CCD カメラ（親指シフトキーボードモデルは別売）を直接 USB コネクタに接続する場合に使用します。

「CCD カメラを使う」（…▶ P.55）

8 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

 **POINT**

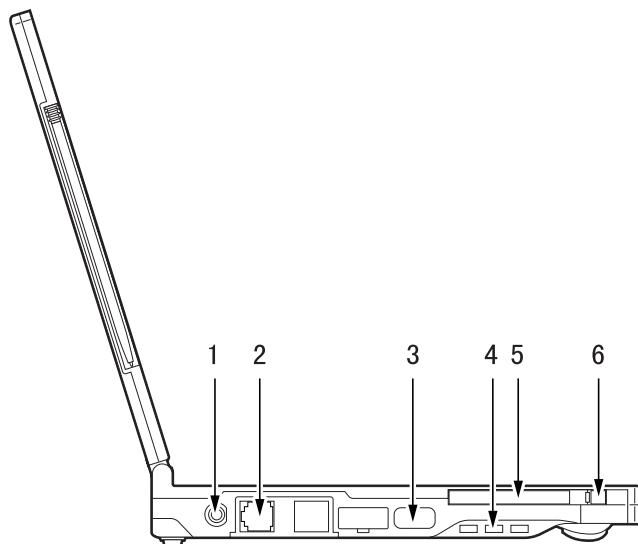
▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）

商品番号：0522010

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

パソコン本体左側面



1 DC-IN（ディーシーイン）コネクタ

添付のACアダプタを接続するためのコネクタです。

2 モジュラーコネクタ

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

3 赤外線通信ポート

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- ▶ 赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」にてお使いになれます。
「赤外線通信について」(…▶ P.118)
- ▶ 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。

4 空冷用ファン

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。

パソコン本体内部の温度が高くなると回転します。

⚠ 注意



- 空冷用ファンの穴はふさがないでください。
内部に熱がこもり、故障の原因となります。

5 PC（ピーシー）カードスロット

別売の PC カードをセットするためのスロットです。

「PC カードをセットする」（[..▶ P.59](#)）

POINT

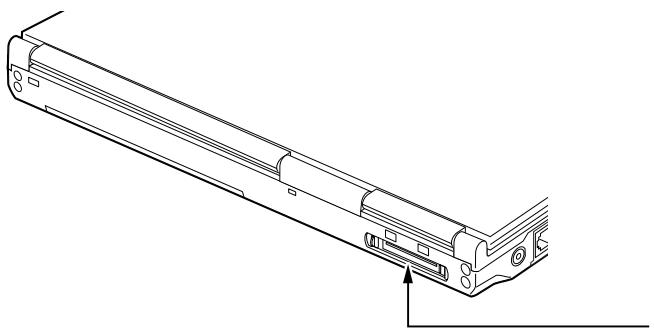
▶ 別売の OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」に読み替える場合があります。

6 PC カード取り出し／ロックボタン

PC カードを取り出すときに押します。また、セットした PC カードが不用意に抜けるのを防ぎます。

「PC カードを取り出す」（[..▶ P.61](#)）

パソコン本体背面

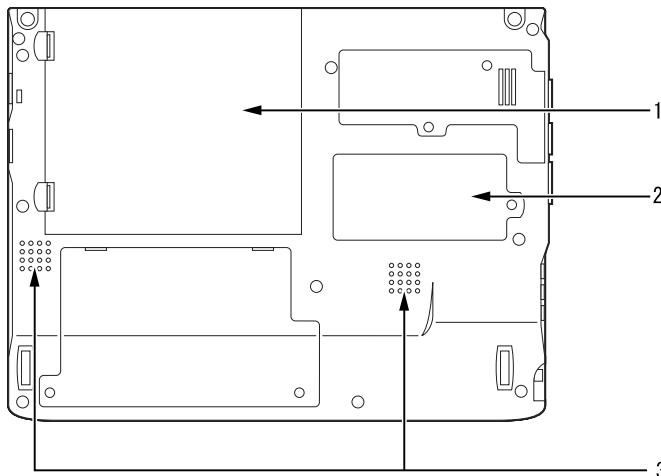


1 コネクタボックス接続コネクタ

添付のコネクタボックス（親指シフトキーボードモデルのみ）を接続するためのコネクタです。

「コネクタボックスについて」（[…▶ P.68](#)）

パソコン本体下面



1 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

「内蔵バッテリパックを交換する」（[…▶ P.37](#)）

2 拡張RAM（ラム）モジュールスロット

本パソコンのメモリをセットするスロットです。

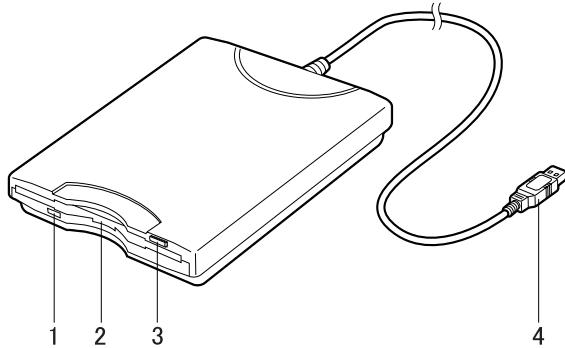
「メモリを増やす」（[…▶ P.63](#)）

3 スピーカー

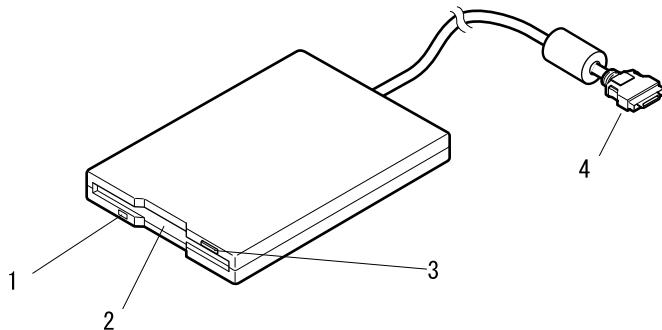
本パソコンの音声が出力されます。

FDD ユニット

FDD ユニット (USB)



フロッピーディスクユニット



1 アクセスランプ

フロッピーディスクドライブの動作中に点灯します。

2 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

3 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

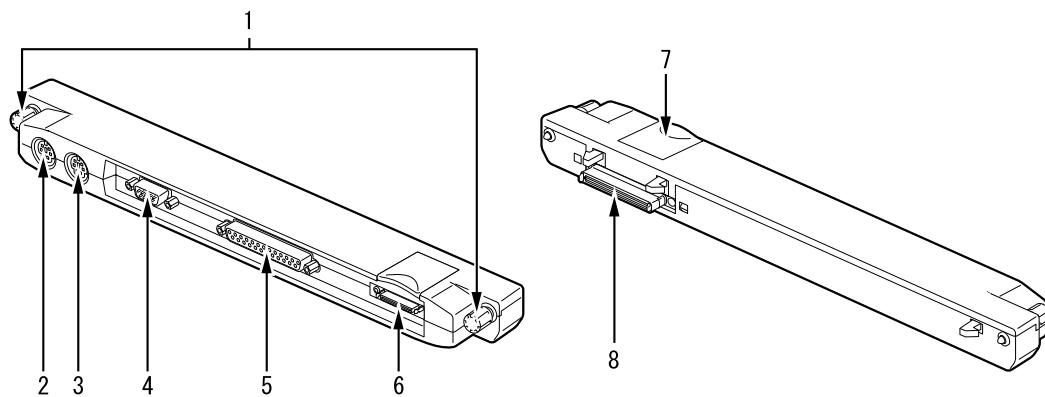
4 接続コネクタ

FDD ユニット (USB) はパソコン本体に、フロッピーディスクユニットはコネクタボックスの FDD ユニットコネクタに接続します。

POINT

- ▶ FDD ユニット (USB) は、親指シフトキーボードモデルには添付されていません。
- ▶ フロッピーディスクユニットは、親指シフトキーボードモデルに添付されています。
- ▶ 「OASYS 文書フロッピイ」は、フロッピーディスクユニットでのみお使いになれます。

コネクタボックス



1 接続ネジ

コネクタボックスをパソコン本体に固定するときに、回してロックします。

「コネクタボックスを取り付ける」(⇒ P.68)

2 マウスコネクタ

別売のPS/2規格のマウスを接続するためのコネクタです。

「マウスの接続」(⇒ P.70)

3 拡張キーボードコネクタ

別売のPS/2規格のテンキー・キーボードなどを接続するためのコネクタです。

「テンキー・キーボードの接続」(⇒ P.71)

4シリアルコネクタ

別売のRS-232C(アールエス232シ)規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

5 パラレルコネクタ

別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。

「プリンタの接続」(⇒ P.72)

6 フロッピーディスクユニットコネクタ

親指シフトキーボードモデルに添付のフロッピーディスクユニットを接続するためのコネクタです。接続方法などについては、『取扱説明書』をご覧ください。

7 接続コネクタ取り外しレバー

コネクタボックスをパソコン本体から取り外す場合に起こします。

「コネクタボックスを取り外す」(⇒ P.69)

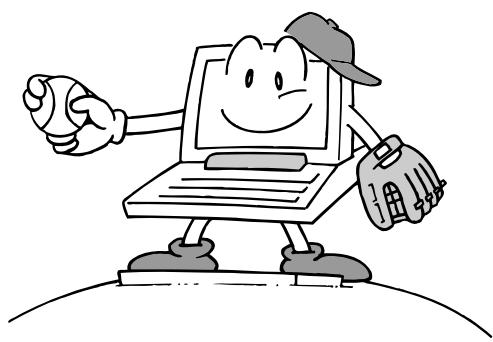
8 接続コネクタ

パソコン本体に接続するための接続コネクタです。

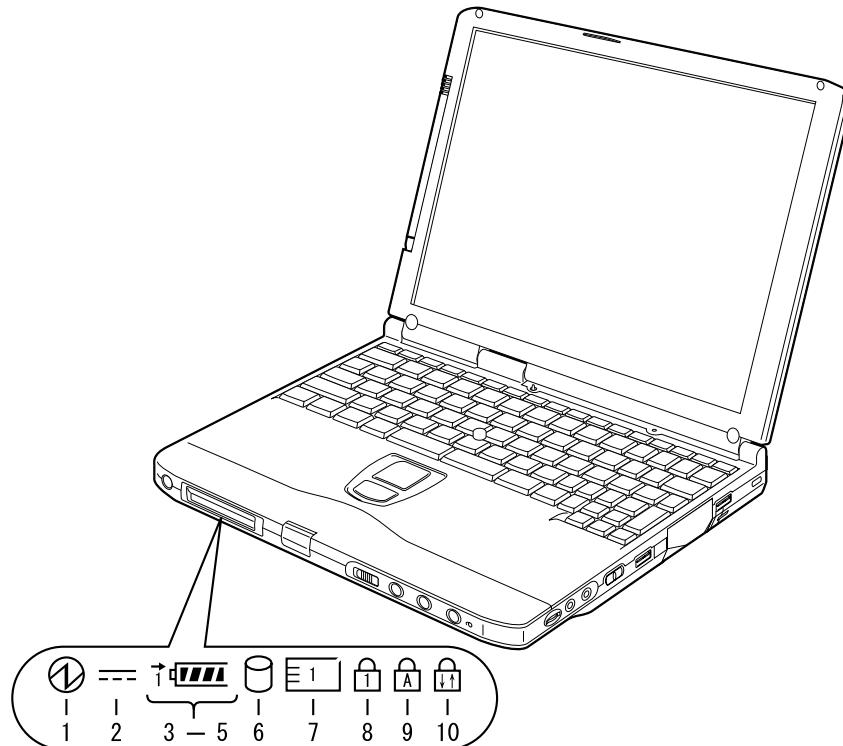
「コネクタボックスを取り付ける」(⇒ P.68)

重要

- ▶ コネクタボックスは親指シフトキーボードモデルのみ添付されています。
- ▶ 各コネクタにオプション機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。



2 状態表示 LCDについて



1 SUS/RES (サスレス) 表示 (①)

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイ状態 (⇒ P.26) のときに点滅します。

2 AC (エーシー) アダプタ表示 (---)

ACアダプタから電源が供給されているときに点灯します。

3 バッテリ装着表示 (1、■)

バッテリが取り付けられているときに点灯します。

4 バッテリ充電表示 (→)

バッテリが充電しているときに点灯します。また、バッテリが熱くなっていたり、冷えていて充電を行わない場合は点滅します。

「充電する」 (⇒ P.32)

5 バッテリ残量表示 (■■■)

バッテリの残量を表示します。

「残量を確認する」 (⇒ P.34)

6 ハードディスクアクセス表示 (■)

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。次ページの POINT もご覧ください。

7 PC カードアクセス表示 ()

PC カードにアクセスしているときに点灯します。下記の POINT もご覧ください。

8 Num Lock (ニューメリカルロック) 表示 ()

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。[**Num Lk**] を押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「テンキーモードについて」 (..▶ [P.24](#))

9 Caps Lock (キャップスロック) 表示 ()

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

[**Shift**] を押しながら [**CapsLock**] を押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

10 Scroll Lock (スクロールロック) 表示 ()

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

[**Fn**] を押しながら [**Scr Lk**] を押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。表示中の動作は、アプリケーションに依存します。

 **POINT**

- ▶ ハードディスクアクセス表示が点灯中に、MAINスイッチをOFFにしたり SUS/RESスイッチを操作すると、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。
- ▶ MAINスイッチがOFFの場合は、充電中を除いて状態表示LCDの全表示が消灯します。
- ▶ PC カードアクセス表示は、別売の OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」に読み替える場合があります。

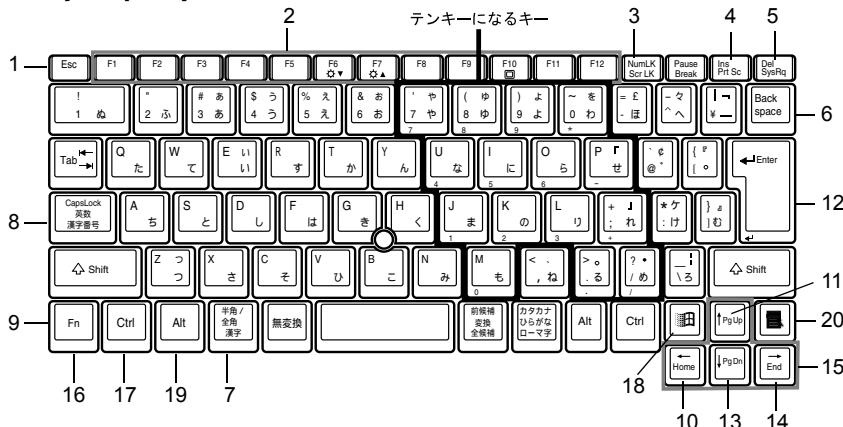
3 キーボードについて

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。

ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき

OADG キーボード



親指シフトキーボード



1 Esc (エスケープ) キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

2 ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられます。

3 Num Lk (Num Lock (ニューメリカルロック)) キー

〔Num Lk〕 を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。

「テンキーモードについて」 (⇒ P.24)

4 Insert (インサート) キー

文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。

4 Prt Sc (Print Screen (プリントスクリーン)) キー

表示されている画面を画像データにするときに使います。[Fn] を押しながら [Prt Sc] を押します。

[Alt] と [Fn] を押しながら [Prt Sc] を押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト（「ペイント」など）を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」を選ぶことなどで編集、保存、印刷ができます。

5 Delete (デリート) キー

カーソルの右側にある 1 文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。

[Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押すと、応答しなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動できます。

6 Back Space (バックスペース) キー

カーソルの左側にある 1 文字を削除するときに使います。

7 半角／全角キー

文字を入力するときに、半角と全角を切り替えます。

8 Caps Lock (キャップスロック) 英数キー

[Shift] を押しながら [Caps Lock] を押すと、英大文字固定モードになります。もう 1 度押すと解除されます。

9 Shift (シフト) キー

他のキーと組み合わせて使います。[Shift] を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

10 Home (ホーム) キー

[Fn] を押しながら [Home] を押すと、カーソルを行の最初に移動します。

[Ctrl] と [Fn] を押しながら [Home] を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

11 Pg Up (Page Up (ページアップ)) キー

[Fn] を押しながら [Pg Up] を押すと、前のページに切り替えます。

12 Enter (エンター) キー

入力した文字を確定するときなどに使います。

ワープロソフトなどでこのキーを押すと改行が入力されるため、リターン（改行）キーともいいます。

13 Pg Dn (Page Down (ページダウン)) キー

[Fn] を押しながら [Pg Dn] を押すと、次のページに切り替えます。

14 End (エンド) キー

〔Fn〕を押しながら〔End〕を押すと、カーソルを行の最後に移動します。

〔Ctrl〕と〔Fn〕を押しながら〔End〕を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

15 カーソルキー

カーソルを上下左右に移動するときに使います。

16 Fn (エフエヌ) キー

本パソコン独自の機能で、以下のように他のキーと組み合わせて使います。

- ・〔Fn〕を押しながら〔F3〕を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。
- ・800×600ドット以下の解像度のときに〔Fn〕を押しながら〔F5〕を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
- ・〔Fn〕を押しながら〔F6〕を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
- ・〔Fn〕を押しながら〔F7〕を押すごとに、8段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(⇒ P.39)
- ・外部ディスプレイを接続したときに〔Fn〕を押しながら〔F10〕を押すと、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。

17 Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。

18 Windows (ウィンドウズ) キー

「スタート」メニューを表示するときに使います。

19 Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使います。

20 Application (アプリケーション) キー

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。

クリックポイントIVの下ボタンの代わりになります。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。〔Num Lk〕を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LCDに〔1〕が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。
ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、パソコン本体のテンキーの部分は無効となります。

4 スタンバイ／休止状態について

スタンバイと休止状態

スタンバイとは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させることができます。

休止状態とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切ることです。

これらの機能を利用すると、パソコンを使用中でも、メモリ内のプログラムやデータをそのままの状態で保持したまま、本パソコンの節電が行えます。

POINT

- ▶ スタンバイと休止状態の違いは以下のとおりです。
 - ・ スタンバイ
 - ・ メモリ内のプログラムやデータは、システム RAM (メモリ) で保持されます。スタンバイ中は、状態表示 LCD の ① が点滅します。
 - ・ スタンバイ中はわずかに電力を消費します。電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、AC アダプタを接続していない場合はバッテリから供給されます。
 - ・ 「休止状態」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が短くなります。
 - ・ 休止状態
 - ・ メモリ内のプログラムやデータは、ハードディスクの Save To Disk 領域 (⇒ P.114) に書き込まれて保存されます。保存が完了すると、パソコン本体の電源が自動的に切れます。ただし、MAIN スイッチが ON (I 側にスライドしている) の状態では、ワンタッチボタンを使用するためのわずかな電力を消費します。電力を消費しないようにするには、MAIN スイッチを OFF (O 側にスライドしている) の状態にしてください。
 - ・ 電源が自動的に切れるため、「スタンバイ」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が長くなります。

スタンバイする

☞ 重要

- ▶ バッテリでのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリを満充電にした状態で、約1日です。スタンバイしているときにバッテリが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。
- ▶ 長時間のスタンバイは行わないでください。本パソコンを長時間お使いにならない場合には、データを保存してからOSを終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- ▶ スタンバイ中に、MAINスイッチをOFFにしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
- ▶ 以下の場合は、スタンバイしないでください。
 - ・OSの起動中または終了処理中
 - ・プリンタでの印刷処理中など、パソコンが何かを処理している最中、および処理完了直後
 - ・ハードディスクまたはフロッピーディスクにアクセス中
 - ・モデムで通信中
 - ・LANカードなどでネットワークに接続中
 - ・ビデオCD、およびMPEGファイルを再生中
 - ・音楽CDやゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・接続している周辺機器のドライバのインストールが終了していない場合（ドライバのインストールが必要な周辺機器のみ）

作業を一時停止する（スタンバイ）

スタンバイするには、SUS/RESスイッチを使う方法、液晶ディスプレイを閉じる方法および「Windowsの終了」ダイアログボックスを使う方法があります。

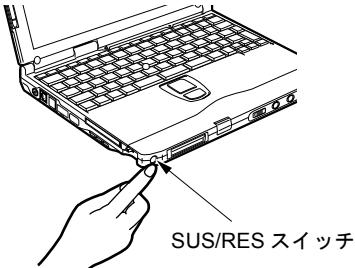
○ POINT

- ▶ 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、本パソコンはスタンバイしないことがあります。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイに時間がかかる場合があります。
- ▶ お使いになるPCカードによっては、バッテリでのスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。
- ▶ ご購入時の設定では、節電のため、本パソコンをバッテリで動作させているときに約15分間使用されなかった場合、自動的にスタンバイするように設定されています。この設定は変更できます。
「設定を変更する」(☞ P.121)

■ SUS/RES スイッチを使う

- 1 状態表示 LCD (☞ P.11) の  およびアクセスランプ (☞ P.17) などが点灯していないことを確認します。
- 2 SUS/RES スイッチを押します。

しばらくすると状態表示 LCD の  が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。

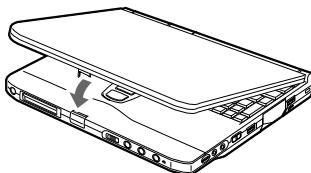


POINT

- ▶ SUS/RES スイッチは4秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

■ 液晶ディスプレイを閉じる

- 1 状態表示 LCD (☞ P.11) の  およびアクセスランプ (☞ P.17) などが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「なし」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイしないように設定できます。ご購入時は「スタンバイ」に設定されています。

「設定を変更する」 (☞ P.121)

POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「なし」に設定した場合は、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。

■「Windows の終了」ダイアログボックスを使う

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

2 「スタンバイ」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。

本パソコンがスタンバイします。

作業を再開する（レジューム）

一時停止するパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。

レジュームするには、SUS/RES スイッチを使う方法と液晶ディスプレイを開く方法があります。

△ 重要

- ▶ スタンバイした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒以上待ってください。
- ▶ SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作業中のデータが失われることがあります。

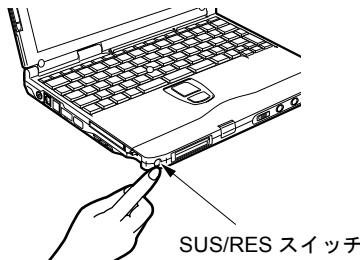
○ POINT

- ▶ レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、レジュームに時間がかかる場合があります。

■ 液晶ディスプレイが開いているとき

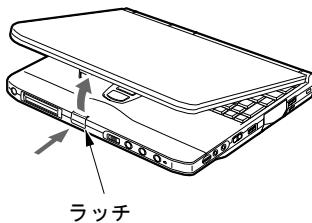
1 状態表示 LCD の  が点滅していることを確認します。

2 SUS/RES スイッチを押します。



■ 液晶ディスプレイが閉じているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。



POINT

- ▶ SUS/RES スイッチまたは「Windows の終了」ダイアログボックスでスタンバイした場合は、液晶ディスプレイを開いてもレジュームしません。

■ モデム着信によるレジューム

通信アプリケーションによっては、通信アプリケーションを起動したままスタンバイしておくと、モデムへの着信によって自動的にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ 内蔵モデムに着信すると「モデム着信によるレジューム」機能の設定の有無に関わらず、常にレジュームします。レジュームさせたくないときは、モジュラーケーブルをモジュラーコネクタから抜いておいてください。
- ▶ モデム着信によるレジューム後は画面が表示されません。クリックポイントIV（マウス）を操作すると画面が表示されます。クリックポイントを操作しても画面が表示されない場合は、[]などのキーを押してください。この操作をしても画面が表示されない場合は、状態表示 LCD の ① が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはスタンバイになっています。SUS/RES スイッチを押して、レジュームしてください。

休止状態にする

休止状態にするには、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで次のように設定をしてください。

- 「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックし、にする（ご購入時に設定されています）。
- 「詳細」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「休止状態」にする（ご購入時は「スタンバイ」に設定されています）。

■ 重要

- ▶ PC カードやプリンタなどの機器を接続した状態で休止状態にすると、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ▶ 以下の場合は、休止状態にしないでください。
 - OS の起動中または終了処理中
 - プリンタでの印刷処理中など、パソコンが何かを処理している最中、および処理完了直後
 - ハードディスクまたはフロッピーディスクにアクセス中
 - モデムで通信中
 - LAN カードなどでネットワークに接続中
 - ビデオ CD および MPEG ファイルを再生中
 - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - 接続している周辺機器のドライバのインストールが終了していない場合（ドライバのインストールが必要な周辺機器のみ）

作業を一時停止する（休止状態）

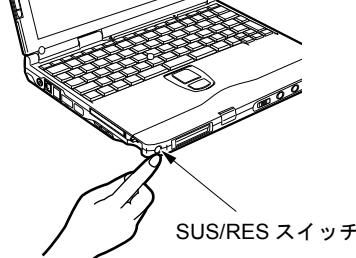
■ 重要

- ▶ MAIN スイッチが ON の状態では、ワンタッチボタンを使用するためのわずかな電力を消費します。電力を消費しないようにするには、MAIN スイッチを OFF の状態にしてください。

■ SUS/RES スイッチを使う

- 1 状態表示 LCD (⇒ P.11) の  およびアクセランプ (⇒ P.17) などが点灯していないことを確認します。
- 2 SUS/RES スイッチを押します。

ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



■ 液晶ディスプレイを閉じる

- 1** 状態表示 LCD (☞ P.11) の  およびアクセスランプ (☞ P.17) などが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。
しばらくすると、電源が切れます。

POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスに「休止状態」タブが表示されない場合は、Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。
「Save To Disk 領域」(☞ P.114)
ご購入時には、Save To Disk 領域が作成されています。

作業を再開する（レジューム）

重要

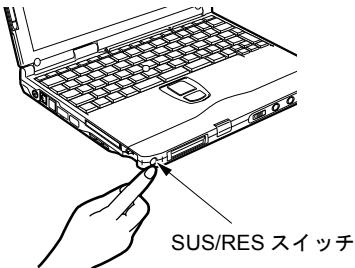
- ▶ 休止状態にした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは 10 秒以上待ってください。

POINT

- ▶ レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。
- ▶ 本パソコンをお使いの状況によっては、レジュームに時間がかかる場合があります。
- ▶ 休止状態にした場合、モデム着信によるレジューム (☞ P.29) はできません。

- 1** MAIN スイッチが OFF の状態のときは、MAIN スイッチを ON の状態にします。
- 2** SUS/RES スイッチを押します。

保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



5 バッテリについて

本パソコンは、携帯での使用を考慮して、ACアダプタの他にバッテリからも電源を供給することができます。

充電する

1 ACアダプタを接続します。

ACアダプタを接続すると充電が始まり、状態表示LCDにバッテリ充電表示( の )と、そのときのバッテリ残量が表示されます。

2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、ACアダプタを取り外します。

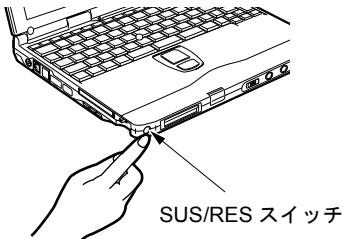
POINT

- ▶ 充電時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリの充電は、バッテリ充電表示()が消え、左端のバッテリ残量表示が点滅()から点灯()に変わると完了です。バッテリの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリ残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ MAINスイッチをOFFにしている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示LCDの表示が消えます。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります( が点滅します)。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリで使う

ここでは、バッテリでの運用について説明します。

- 1 ACアダプタを取り外し、SUS/RESスイッチを押します。



POINT

- ▶ MAINスイッチをOFFしている場合は、MAINスイッチをONにしてください。
- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリ稼動時間は短くなります。
- ▶ バッテリ稼動時間については、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧ください。
- ▶ バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。

残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示LCDのバッテリ残量表示で確認できます。

バッテリの残量表示

-  約100%～約76%のバッテリ残量を示します。
↓
-  約75%～約51%のバッテリ残量を示します。
↓
-  約50%～約26%のバッテリ残量を示します。
↓
-  約25%～約13%のバッテリ残量を示します（充電中は、0%～約25%のバッテリ残量を示します）。
-  LOWバッテリ状態（約12%以下のバッテリ残量）を示します。■が点滅します。
↓
-  バッテリ切れ状態（0%のバッテリ残量）を示します。

POINT

- ▶ バッテリ残量表示（）は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリ残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ バッテリ装着表示（）の「1」は、内蔵バッテリを示します。

バッテリの異常表示

-  バッテリが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ▶ が表示される場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
「内蔵バッテリパックを交換する」（[P.37](#)）

LOW バッテリ状態

ここでは、本パソコンのバッテリがLOWバッテリ状態になった場合の表示と、その対処方法を説明します。

LOW バッテリ状態の表示

状態表示LCDのバッテリ残量表示が点滅します（□）。

LOW バッテリ状態の対処

1 SUS/RESスイッチを押します。

LOWバッテリ状態になったらすみやかにSUS/RESスイッチを押してスタンバイ（一時停止）させます。作業中にスタンバイしてもプログラムやデータは消えません。
「スタンバイする」（ P.26）

2 ACアダプタを接続します。

ACアダプタを接続するとバッテリが充電されます。

POINT

- ▶ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使用します。LOWバッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、ACアダプタを接続してお使いください。
- ▶ LOWバッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ▶ LOWバッテリ状態のまま使用し続けると、最悪の場合、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかにACアダプタを接続してください。また、ACアダプタがない場合は、SUS/RESスイッチを押して本パソコンをリジュームさせてから、本パソコンの電源を切ってください。

3 SUS/RESスイッチを押します。

本パソコンがリジュームし、作業を再開できます。

注意

- ▶ 本パソコンは、バッテリ残量が3%になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「アラーム」タブでは「バッテリ切れアラーム」の次の項目の設定を変更しないでください。
 - ・「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
 - ・「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリ切れのアラームの動作」ダイアログボックスの次の項目
 - ・「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」
 - ・「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」

これらの項目をクリックして□にした状態で使用すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

バッテリの注意

⚠ 警告



- バッテリは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは、使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

● 放電について

- バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間（約1ヵ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

● 寿命について

- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。
- バッテリ稼動時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。

● 廃棄について

バッテリを廃棄する場合は、バッテリがショートしないようバッテリ端子をテープなどで絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。

● バッテリ稼動時間を長くするには

省電力機能を使用します。

「省電力の設定」(…▶ P.121)

● バッテリ稼動時間が短くなる場合について

- バッテリ稼動時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼動時間が短くなる場合があります。
- バッテリは、長期間使用していると充電容量が低下し、充電能力が落ちてきます。その場合は新しいバッテリと交換してください。

● 次のような場合はACアダプタを使用してください

- ハードディスクやCDなどを頻繁に使用するとき
- LANカードを使用するとき
- パソコンをご購入時の状態に戻すとき

● パソコン通信やインターネットを利用するとき

- パソコン通信やインターネットでは、大量の電力を消費します。通信中はバッテリの残量にご注意ください。
- 長時間パソコン通信やインターネットを使用するときは、ACアダプタを接続してください。

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリパックの交換について説明します。

⚠ 警告



- 内蔵バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリパックは、以下の製品をお買い求めください。

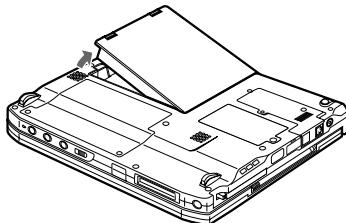
品名：内蔵バッテリパック
型名：FMVNBP105
(ご購入元にお問い合わせください)

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

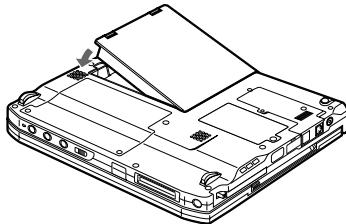
3 内蔵バッテリパックを取り外します。

内蔵バッテリパックの2ヶ所のツメを押さえながら持ち上げて、内蔵バッテリパックを取り外します。



4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

内蔵バッテリパックのコネクタ部分を先に接続し、パソコン本体に取り付けます。



POINT

- ▶ 本パソコンは、バッテリ運用時でもパソコン本体がスタンバイ状態か休止状態であれば、内蔵バッテリパックの交換が行えます。その際は以下の点に注意し、充電済みの内蔵バッテリパックと交換してください。
 - ・スタンバイまたは休止状態にする前にデータを保存してください。
 - ・内蔵バッテリパックの交換は、3分以内に行ってください。
 - ・内蔵バッテリパックの交換中にSUS/RESスイッチを押さないでください。
 - ・内蔵バッテリパックの交換中に液晶ディスプレイを開け閉めしないでください。
 - ・内蔵バッテリパックの交換後、パソコン本体をリジュームさせる場合は、内蔵バッテリパックがロックされていることを確認してください。
- なお、ご購入時および長時間本パソコンをご使用にならなかつた場合は、内蔵バッテリパックを交換する前に、ACアダプタでの通電を半日以上行ってください。また、パソコン本体のバッテリパック接続端子には触れないでください。

6 液晶ディスプレイの明るさを変更する

液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。

明るさを設定する

「PMSet98」の「電源依存」タブの「LCD バックライト」で設定できます。AC アダプタで使っているときと、バッテリで使っているときの明るさを、それぞれ設定できます。設定のしかたについては、「省電力の設定」(⇒ P.121) をご覧ください。

設定した明るさを変更する

キーボードを使用すれば、本パソコンを使用中でも上記の設定に関係なく、明るさを8段階に調節できます。[Fn] を押しながら [F6] で暗く、[F7] で明るくなります。調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。



POINT

- ▶ 本パソコンを再起動したり、スタンバイからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。
- ▶ PMSet98 を終了している場合は、明るさを示すインジケータが表示されません。

7 画面の解像度と発色数について

表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

解像度	発色数
640 × 480 ドット※1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) ※2 ※3
800 × 600 ドット※1	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット) ※2 ※3
1024 × 768 ドット	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) ※5
1280 × 1024 ドット※4	256 色

※1 640 × 480 ドットまたは 800 × 600 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

※2 ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。

※3 色数を True Color (32 ビット) に設定した場合、以下の操作による液晶ディスプレイの全画面表示は使用できません。

- ・  を押しながら  を押す
 - ・ 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで「詳細」をクリックし、「フラットパネル」タブの「ディスプレイストレッチ」を にする。
- ※4 本パソコンでは仮想スクリーンモードでの表示となります。1280 × 1024 ドットに設定すると、液晶ディスプレイには 1024 × 768 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。
- ※5 本モードは、ディスプレイドライバをアップデートした場合のみサポートします。ただし、アップデートするとローテーション機能（ P.43）は使用できなくなります。ドライバのアップデートについては、 「アプリケーション CD2」の「UPDATE」フォルダの中の readme.txt をご覧ください。
- 本モードに切り替えると、より鮮明な画像（高画質）になります。デジタルカメラの写真など、静止画像をご覧になると同時にご利用ください。ただし、本モードは解像度と発色数を重視した画面モードのため、描画パフォーマンスは下がります。

POINT

- ▶ ご購入時の解像度と発色数は次のとおりです。
1024 × 768 ドット、High Color (16 ビット)
- ▶ High Color (16 ビット) は 65536 色、True Color (24 ビット) および True Color (32 ビット) は 1677 万色です。
- ▶ 別売の外部ディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイの解像度と発色数について」（ P.80）をご覧ください。
- ▶ 設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ▶ アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。

重要

- ▶ 発色数を True Color (24 ビット) に設定した場合は、マルチモニタ機能（ P.82）を使用できません。
- ▶ ドライバをアップデートした場合は、ローテーション機能（ P.43）を使用できません。

解像度や発色数を変更する

重 要

- アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。
 - 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」→「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。
 解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。
- 解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。

- デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 「設定」タブをクリックします。
- 設定する項目に合わせて手順 4 または手順 15 (⇒ P.42) へ進みます。
 - 解像度を 1024×768 ドット以下に設定する場合…手順 15 (⇒ P.42)
 - 解像度を 1280×1024 ドットに設定する場合…手順 4
 - 発色数を変更する場合…手順 15 (⇒ P.42)

POINT

- 手順4~14の操作をして解像度を変更したことがある場合、2回目以降は手順15へ進んでください。ただし、ディスプレイドライバをインストールし直したあとは、手順 4 へ進んでください。

- 「詳細」をクリックします。
- 「モニタ」タブをクリックします。
- 「変更」をクリックします。
- 「次へ」をクリックします。
- 「特定の場所にあるすべてのドライバの……」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 「すべてのハードウェアを表示」をクリックし、 にします。
- 以下のように選びます。

製造元：「(標準モニタの種類)
モデル：「Super VGA 1280×1024 」

11 「次へ」をクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というダイアログボックスが表示されます。

12 「次へ」をクリックします。

「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というダイアログボックスが表示されます。

13 「完了」をクリックします。**14 「閉じる」をクリックします。** **POINT**

▶ 「リフレッシュレート」ダイアログボックスが表示された場合は、次の操作をしてください。

1 「OK」をクリックします。

2 メッセージが表示されるので、「はい」をクリックし、手順15へ進みます。

15 発色数や解像度を変更します。

(画面は機種や状況により異なります)

16 「OK」をクリックします。

設定を確認するダイアログボックスが表示されます。表示されない場合は、自動的に設定が変更されます。

17 「OK」または「はい」をクリックします。

ダイアログボックスが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。画面の設定が変更されます。

POINT

- ▶ 「互換性の警告」ダイアログボックスが表示された場合は、「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。

ローテーション機能を使う

「ローテーション機能」を使うとデスクトップの画面を縦横に変更できます。

画面の角度を変更する

重要

- ▶ True Color (24 ビット) 用のドライバをアップデート (☞ P.40) した場合、ローテーション機能は使用できません。
- ▶ ローテーション機能を使う前に使用中のアプリケーションを終了してください。
- ▶ アクティブデスクトップに設定されたままローテーション機能を使うと、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。
1 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」→「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。

- 1** デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「詳細」をクリックします。
- 4** 「ローテーション」タブをクリックし、「左回り」または「右回り」をクリックして画面の角度を変更します。
「右回り」をクリックすると右方向へ、「左回り」をクリックすると左方向に 90 度ずつ画面が回転します。
- 5** 「OK」をクリックします。

6 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

重要

- ▶ **[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[R]** を押すと、現在の状態から 180 度回転します。
- ▶ ローテーション機能使用中は、画面の解像度や色数を変更しないでください。解像度と色数を変更する場合は、画面を元の状態（角度）に戻してから変更してください。
- ▶ ローテーション機能使用中は、マルチモニタ機能を使用できません。また、マルチモニタ機能を使用時にローテーション機能を使用しないでください。マルチモニタ機能を使用中にローテーション機能を使用すると、画面は回転せず、マルチモニタ機能を終了できなくなります。この場合は、本パソコンを再起動してください。
- ▶ ローテーション機能使用中に、壁紙の表示位置がずれことがあります。この場合は、壁紙の上で右クリックし、表示されるメニューから、「最新の情報に更新」をクリックしてください。正しい表示に戻ります。
- ▶ ローテーション機能使用中は、アプリケーションによっては正常に動作しなかったり、表示速度が遅くなる場合があります。
- ▶ Windows 98 の起動中、終了中はローテーション機能が無効になります。
- ▶ ローテーション機能をお使いの場合、マウスの動きは以下のようになります。
 - PS/2 マウスは、パソコン本体前面から見ている場合にお使いになれます。
 - USB マウスは、お使いになる方向から画面を見て、マウスポインタが  の向きになっている場合に、お使いになれます。

第2章

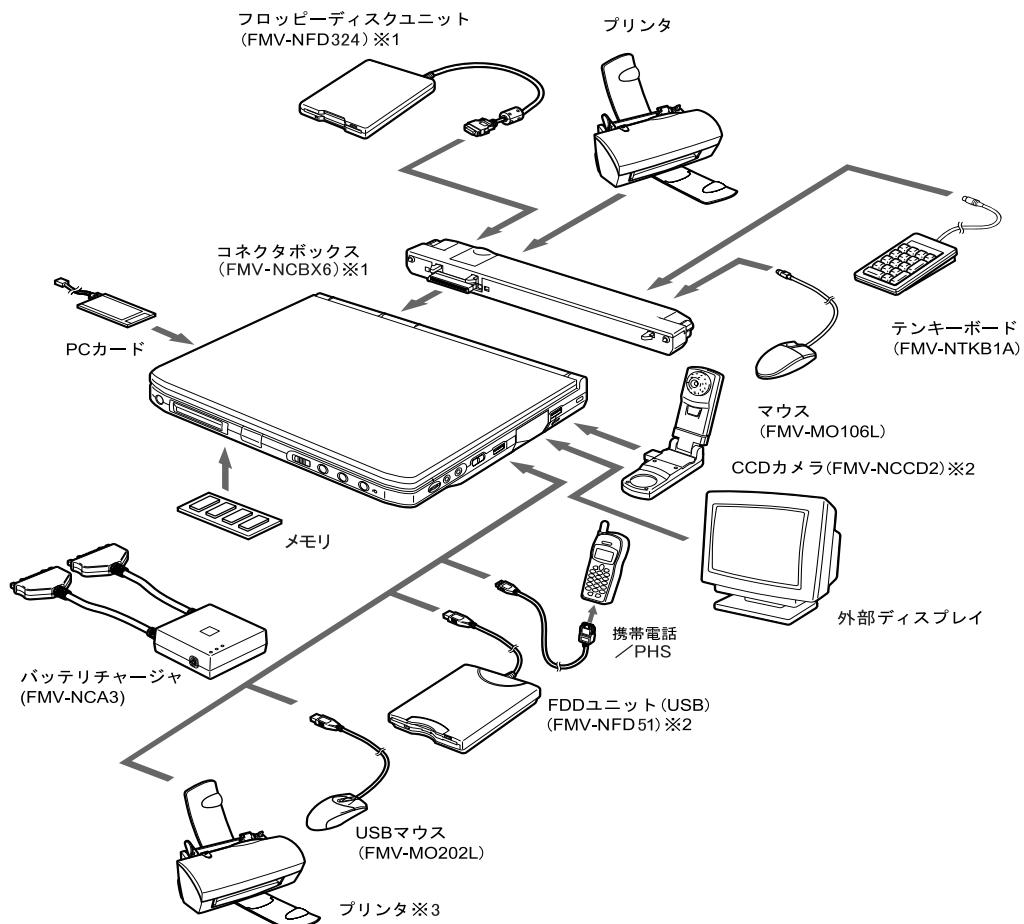
ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いなどについて説明しています。

1	周辺機器を取り付ける前に	46
2	USB 規格対応の機器を使う	48
3	携帯電話や PHS を接続する	51
4	CCD カメラを使う	55
5	PC カードを使う	58
6	メモリを増やす	63
7	コネクタボックスについて	68
8	外部ディスプレイを接続する	75

1 周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器



※1 親指シフトキーボードモデルのみ添付されています。

※2 親指シフトキーボードモデルには添付されていません。

※3 USB 交換ケーブルまたは USB ケーブル経由で接続できます。

周辺機器について

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

● 周辺機器によっては設定作業が必要です

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。

● 周辺機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

● 純正品をお使いください

弊社純正のオプション機器については、販売店にお問い合わせになるか、FAX情報サービスをご利用ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

● ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本パソコンはACPIモードに設定されています。ACPIモードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

● 取り付け／取り外し時の注意

PS/2規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

Windows98のセットアップについては、『取扱説明書』をご覧ください。

POINT

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 USB 規格対応の機器を使う

ここでは、USB 規格対応の周辺機器の接続について説明します。

本パソコンの USB コネクタには、添付の FDD ユニット (USB) (親指シフトキーボードモデルは別売)、別売のマウスやプリンタなどが接続できます。

FDD ユニット (USB) の接続

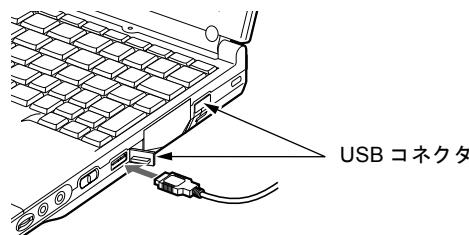
添付の FDD ユニット (USB) (親指シフトキーボードモデルは別売) の使いかたは、『取扱説明書』をご覧ください。また、「FDD ユニット (USB) / フロッピーディスクユニットについて」(☞ P.130) もあわせてご覧ください。

USB マウスの接続

本パソコンは、USB コネクタに別売の USB マウス (FMV-MO202L) を接続できます。

1 本パソコンの USB コネクタのカバーを開き、マウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- ▶ USB マウスはどちらの USB コネクタにも接続できます。
- ▶ パソコン本体の電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- ▶ USB マウスを接続してもクイックポイント IV は無効になります。クイックポイント IV を無効にする場合には、BIOS セットアップの「ポインティングデバイス」(☞ P.95) で設定します。
- ▶ MS-DOS モードでは USB マウスは無効です。
- ▶ PS/2 規格のマウスを使うには、コネクタボックスが必要です。コネクタボックスは親指シフトキーボードモデルのみ添付されています。
「コネクタボックスについて」(☞ P.68)

USB プリンタの接続

必要なものを用意する

プリンタ	Windows98 で動作可能なプリンタを用意してください。
USB 変換ケーブル／USB ケーブル	プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。お使いになるプリンタにあわせて、「PC/AT 互換機」「DOS/V 用」などと記載されているものを用意してください。ケーブルには、ケーブルのドライバとマニュアルが添付されています。
プリンタ／変換ケーブルのマニュアル	必ずプリンタや変換ケーブルのマニュアルも用意してください。

プリンタを接続する

△ 警告



- 感電
- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

△ 注意



- 故障
- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

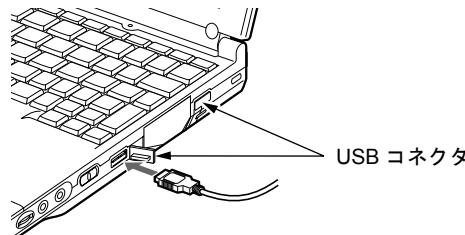
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 プリンタに USB 変換ケーブル、または USB ケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタおよび USB 変換ケーブルまたは USB ケーブルのマニュアルをご覧ください。

- 3** 本パソコンのUSBコネクタのカバーを開き、USB変換ケーブルまたはUSBケーブルを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



- 4** プリンタに電源ケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。

- 5** プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

- 6** パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。

- 7** 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。

POINT

- ▶ プリンタは、どちらのUSBコネクタにも接続できます。
- ▶ プリンタのマニュアルに記載されているとおりにドライバのインストールができないときは、「プリンタを使うときの注意」(…▶ P.74)をご覧ください。
- ▶ プリンタをパラレルポートに接続するには、別売のコネクタボックスが必要です。
「コネクタボックスについて」(…▶ P.68)

3 携帯電話や PHS を接続する

携帯電話や PHS（ピーエイチエス）を接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話／PHS で通信をするときの注意

携帯電話や PHS で通信を行う場合は、次の点に注意してください。

- ⑧「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中の readme.txt を必ずお読みください。
- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしでの対向接続はできません。
- AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
- 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- PHS をケーブルに接続する場合は、Windows が起動した状態で行ってください。
- 通信中または通信アプリケーションを起動中には、スタンバイや休止状態にはできません。
- 携帯電話接続用USBケーブルまたはPHS接続用USBケーブルでの通信後にスタンバイできない場合があります。この場合は、パソコン本体からケーブルを取り外してからスタンバイしてください。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- 電波状況によっては、通信が途中で切断される場合があります。この場合、携帯電話や PHS での通信が切断されていても、通信アプリケーションの通信が切断されていないことがあります。このようなときは、いったん通信アプリケーションでの通信を終了してから、もう一度通信を行ってください。
- 携帯電話接続用USBケーブルで通信中にMicrosoft® NetMeetingを使用すると、本パソコンの動作が遅くなる場合があります。この場合は、本パソコンを再起動してください。
- 携帯電話接続用 USB ケーブルを NTT DoCoMo Doccimo に接続してお使いになる場合、Doccimo のモードを携帯電話から PHS、または PHS から携帯電話に変更するときは、いったん携帯電話から接続ケーブルを取り外し、再度接続してください。
「携帯電話や PHS 用のモデムを選択する」(⇒P.54)
- 携帯電話接続用 USB ケーブルで、大容量のファイルやメールの送受信を同時に複数行うと、途中でデータの送受信が止まってしまうことがあります。この場合は、もう一度 1 つずつ送受信を行ってください。
- 「接続ケーブル」は、WindowsNT ではサポートしておりません。

USB コネクタに接続する

ここでは、接続ケーブル経由で本パソコンと携帯電話や PHS を接続する方法を説明します。

必要なものを用意する

デジタル携帯電話または PIAFS（ピアフ）対応の PHS	お使いになれる機種については、「富士通パソコンホー ムページ FM WORLD」(http://www.fmworld.net) にてご 案内します。
携帯電話接続用 USB ケーブル	デジタル携帯電話と本パソコンを接続します。 本パソコンに添付のケーブルをお使いください。 添付のケーブルの破損補充品は、FMV-CBL101 となります。
PHS 接続用 USB ケーブル	PHS と本パソコンを接続します。 別売の FMV-CBL102 をお使いください。

POINT

- ▶ 本パソコンには、デジタル携帯電話接続カード、および PHS 接続カードをセットする
こともできます。接続カードについては、接続カードのマニュアルをご覧ください。
- ▶ PIAFS（ピアフ）
PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準
規格です。PHS のデジタル通信回線（32/64Kbps）を利用して、非常に高速な通信が
行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS
に対応している必要があります。

携帯電話や PHS を接続する

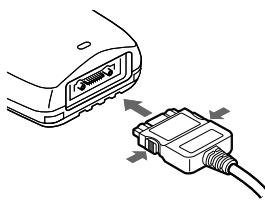
⚠ 注意



- ケーブルは本書および◎「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中の `readme.txt` をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

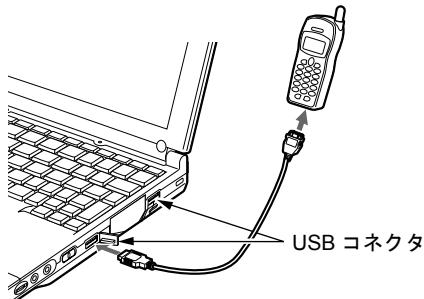
1 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話や PHS に接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



2 パソコン本体右側面の USB コネクタのカバーを開き、接続ケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話や PHS で通信するための設定を行ってください。

設定方法については、□『インターネットガイド』をご覧ください。

POINT

- 携帯電話や PHS は、どちらの USB コネクタにも接続できます。
- 携帯電話接続用 USB ケーブル（添付品）を取り外す場合は、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- PHS 接続用 USB ケーブル（別売品）を取り外す場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

携帯電話やPHS用のモデムを選択する

☞ 重要

- 接続ケーブルを使用する前に、必ず◎「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中の readme.txt をお読みください。
- 本パソコンご購入時には、PHS 接続用 USB ケーブルのドライバは、インストールされていません。必ず◎「アプリケーション CD2」の「Fjusb」の中のドライバをインストールしてください。
- 別売のケーブルに◎「FMV-CBL101／FMV-CBL102用 ドライバCD V1.0.01」が添付されている場合がありますが、添付の CD は使用しないでください。

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話または PHS によって異なります。携帯電話や PHS のマニュアルをご覧になり、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

● 携帯電話接続用 USB ケーブル（添付品）を使用する場合

携帯電話／Doccimo のモード	モデム
携帯電話（9600bps、回線交換）	Fujitsu SOFT USB PDC
携帯電話（28800bps、パケット交換）	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
Doccimo 携帯電話モード (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
Doccimo PHS モード（32K）	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
Doccimo PHS モード（64K）	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

● PHS 接続用 USB ケーブル（別売品）を使用する場合

PHS のモード	モデム
NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

4 CCD カメラを使う

本パソコンに添付の CCD カメラを使うと、本パソコンでデジタル写真やデジタルビデオ映像を簡単に撮ることができます。

POINT

- ▶ 親指シフトキーボードモデルにはCCDカメラは添付されていません。別売のCCDカメラ(FMV-NCCD2)をご購入ください。
- ▶ CCDカメラでデジタル写真やデジタルビデオ映像を撮るときは、本パソコンにインストールされている「FM キャプチャ」で行ってください。FM キャプチャの使いかたは、『ユーザーズガイド』の「アプリケーション一覧」をご覧ください。
- ▶ FM キャプチャ起動中は、CCDカメラの取り付けや取り外しを行わないでください。FM キャプチャが正常に動作しないことがあります。必ず FM キャプチャを終了させてから、CCDカメラの取り付けや取り外しを行ってください。

CCD カメラを取り付ける

△ 注意

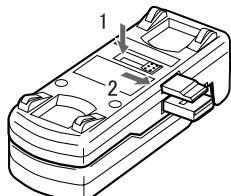
故障

- CCD カメラの接続は、マニュアルをよくお読みになり正しく行ってください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および CCD カメラが故障する原因となることがあります。

USB コネクタに直接接続する場合

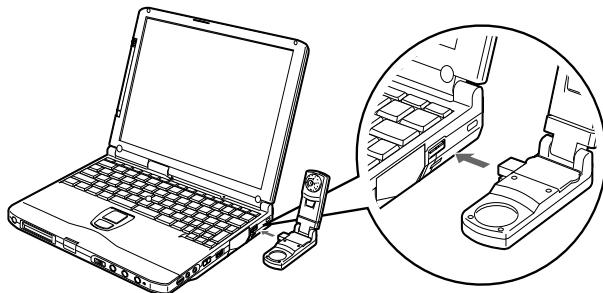
1 CCD カメラ裏面の接続コネクタをスライドさせます。

接続コネクタをスライドさせる場合は、ボタンを押しながら (1)、スライドさせてください (2)。



2 パソコン本体に接続します。

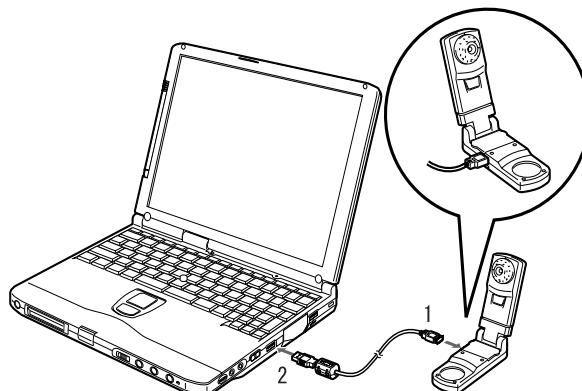
パソコン本体奥側のUSBコネクタとその下にあるCCDカメラ接続スリットに、CCDカメラの接続コネクタとツメをしっかりと差し込んで固定します。



接続ケーブルを使用する場合

1 接続ケーブルの大きいコネクタをCCDカメラに(1)、小さいコネクタをパソコン本体に接続します(2)。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



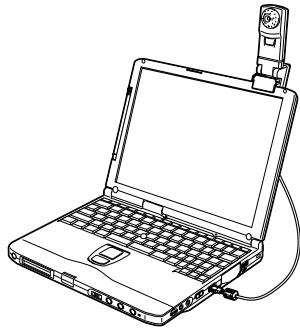
パソコン本体の横に置いて使用してください。

重要

- 接続ケーブルを使用する場合、CCDカメラの接続コネクタは突出させないでください。コネクタが破損する場合があります。

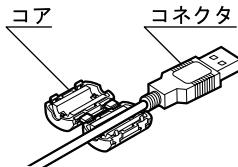
 **POINT**

- ▶ CCD カメラの固定フリップを引き出し、液晶ディスプレイ上部に固定することもできます。

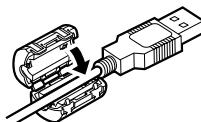


- ▶ 接続ケーブルを使用する場合は、添付のコアを取り付けてください。

1 パソコン本体側のコネクタのすぐ後ろにコアを位置させます。



2 コアを閉じます。



- ▶ 接続ケーブルを使用する場合は、どちらの USB コネクタにも接続できます。

5 PC カードを使う

PC カードを使うときの注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- カードをこすったりして静電気をおこさないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかかるないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- ▶ 代表的な PC カードには次のようなものがあります。
 - SCSI (スカジー) カード
SCSI 規格対応のハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。
 - LAN (ラン) カード
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。
 - デジタル携帯電話接続カード／PHS 接続カード
デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。
- ▶ 本パソコンでは、12V を使用する PC カードはサポートしていません。
- ▶ 本パソコンでは、ZV ポートをサポートしていません。

必要なものを用意する

PC (ピーシー) カード	PC Card Standard に対応した TYPE I (厚さ 3mm) と TYPE II (厚さ 5mm) の PC カードが使えます。
PC カードのドライバ	PC カードによっては、CD やフロッピーディスクで添付されています。
PC カードのマニュアル	PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

PC カードをセットする

PC カードは、名刺サイズのカードにモデムなどの周辺機器機能をもたせたカードです。ここでは、PC カードのセットについて説明します。

⚠ 注意



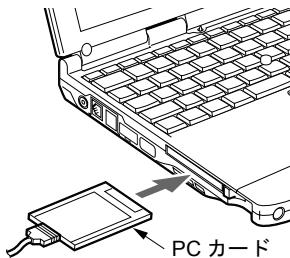
- PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

POINT

- ▶ PC カードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

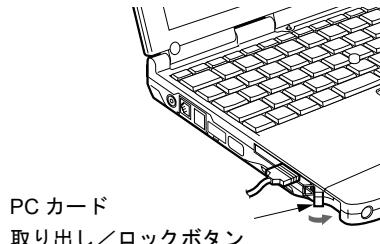
1 PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



2 PC カードをロックします。

PC カード取り出し／ロックボタンを完全に引き出してから倒し、PC カードを金具でロックします。



❸ 初めてセットしたPCカードの場合は、必要に応じてドライバをインストールします。

PCカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。PCカードのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールしてください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。

POINT

- ▶ PCカードのドライバをインストールしている途中でCDを要求された場合は、次のように対応するとお使いになれる場合があります。手順が複雑ですのでご注意ください。

1 ドライバのインストールをキャンセルし、PCカードを取り出します。

「PCカードを取り出す」(⇒ P.61)

2 CD-ROMドライブを接続し、ドライバの入ったCDをセットします。

3 PCカードのドライバの入ったCDの内容を、すべてハードディスクにコピーします。コピーは次のように行います。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューで「新規作成」→「フォルダ」の順にクリックします。

2 デスクトップにできた「新しいフォルダ」を右クリックし、「名前の変更」をクリックしてフォルダ名称を「CD」に変更します。

3 デスクトップの「マイコンピュータ」をクリックし、CD-ROMドライブ(ご購入時は「E:」)をクリックします。

4 「表示」メニュー→「フォルダオプション」の順にクリックします。

5 「表示」タブの「詳細設定」で「すべてのファイルを表示する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。

6  を押しながら  を押し、 を押しながら  を押し、続いて  を押します。

7 手順2で作成したフォルダを右クリックし、 を押します。

8 コピーが終了したら、CD-ROMドライブを取り外し、もう一度PCカードをセットしてください。

ドライバのインストールの途中でCDを要求されたら、次のように操作してください。

1 「検索場所の指定」をクリックして にし、「参照」をクリックします。

2 表示されたウィンドウでデスクトップの「CD」をクリックし、「OK」をクリックします。

- ▶ PCカードのドライバを削除するときは、PCカードのマニュアルをご覧ください。PCカードのマニュアルに記載がない場合は、次の手順でドライバを削除してください。

1 PCカードをセットします。

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3  (システム)をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

4 削除したいデバイスをクリックし、「削除」をクリックします。

5 削除を確認するダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。

6 再起動を確認するダイアログボックスが表示されたら、「いいえ」をクリックします。

7 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックし、Windows98を終了します。

8 PCカードを取り出します。

「PCカードを取り出す」の手順4~5(⇒ P.62)

- ▶ PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

ここでは、PC カードの取り出しかたについて説明します。

POINT

- ▶ コード付きの PC カードを取り出す場合、PC カードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3 のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 タスクバーの(PC カード) をクリックします。

POINT

- ▶ タスクバーの(PC カード) をダブルクリックしたり、コントロールパネルの(PC カード) をクリックして表示される「PC カード (PCMCIA) のプロパティ」ダイアログボックスで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXXX の中止」をクリックします。

XXXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

PC カードの動作が停止し、次の画面が表示されます。

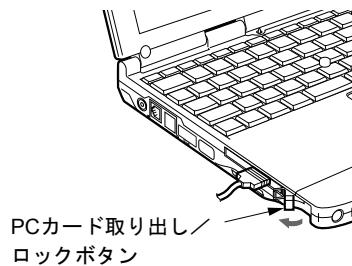


POINT

- ▶ PC カードによっては、「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、パソコン本体の電源を切ってから手順 4 へ進んでください。

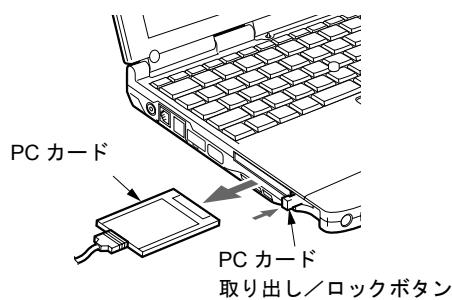
3 「OK」をクリックします。

4 PC カード取り出し／ロックボタンを起こします。



5 PC カードを取り出します。

PC カード取り出し／ロックボタンを押し、PC カードを取り出します。



6 メモリを増やす

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

POINT

- ▶ 本パソコンのご購入時のメモリ容量は 64MB です。メモリを取り付けることで、最大 192MB まで増やすことができます。

必要なものを用意する

メモリ (拡張 RAM (ラム) モジュール)	FMVNM64SD (64MB)、FMVNM128SD (128MB) のメモリのうち、1枚取り付けられます。
プラスのドライバー (ドライバーサイズ：1番)	本パソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズ (M2) に合ったものをお使いください。 他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリを取り付ける／取り外す

ここでは、メモリの取り付け／取り外しについて説明します。

⚠ 警告



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。
- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



- メモリの取り付け／取り外しを行うときは、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。
- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。スタンバイや休止状態中に行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

POINT

- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。

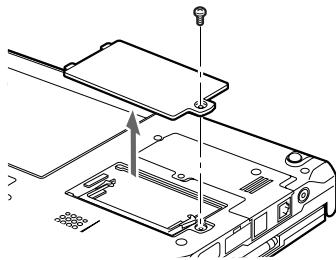
メモリを取り付ける

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

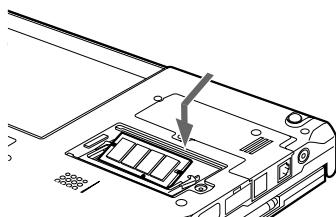
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 ネジを取り外し、拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。

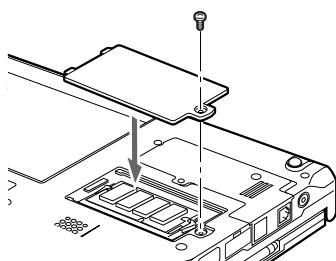
パソコン本体下面にある拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。

**4 メモリを取り付けます。**

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

**5 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。**

手順 3 で外したカバーを取り付けます。



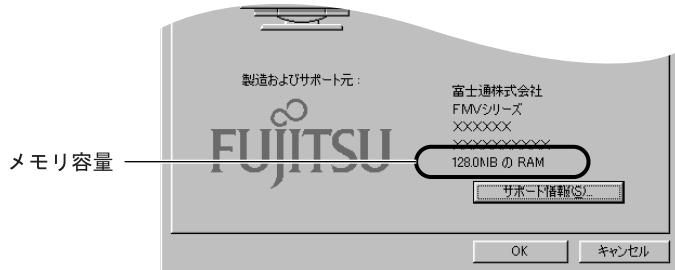
 **重 要**

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は MAINスイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを取り付け後、メモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ○で囲んだ部分の数値が、取り付けたメモリの容量になっているかどうかを確認します。



画面は、64MB のメモリを取り付けた例です。
お使いのシステム構成によっては 1MB 少なく表示される場合があります。

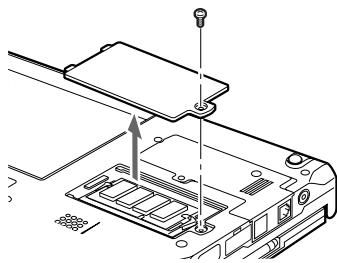
- 5 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウに戻ります。

POINT

- ▶ メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。
「メモリを取り付ける」 (⇒ [P.64](#))

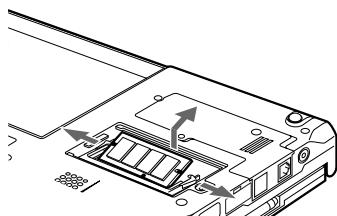
メモリを取り外す

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 ネジを取り外し、拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。
パソコン本体下面にある拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。



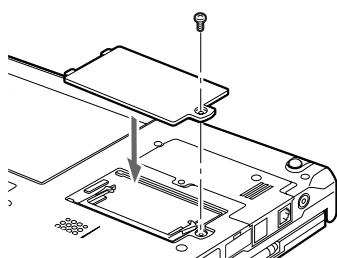
- 4 拡張 RAM モジュールを取り外します。

拡張 RAM モジュールを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



- 5 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。

手順 3 で外したカバーを取り付けます。



7 コネクタボックスについて

コネクタボックスを接続すると、パラレルポートに接続するプリンタなど、さまざまな周辺機器を接続することができます。

POINT

- ▶ コネクタボックスは親指シフトキーボードモデルのみ添付されています。
- ▶ 別売のコネクタボックスは、「FMV-NCBX6」をお使いください。

コネクタボックスを取り付ける

ここでは、コネクタボックスの取り付けについて説明します。

パソコン本体背面に周辺機器を取り付けている場合は、周辺機器を取り外しておいてください。

⚠ 警告

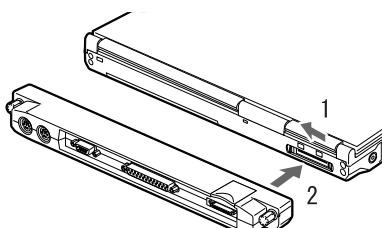


- コネクタボックスの取り付けを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

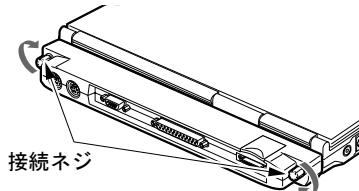
2 コネクタボックスを取り付けます。

パソコン本体背面のコネクタボックス接続コネクタのカバーを開き（1）、コネクタを合わせてしっかりと取り付けます（2）。



3 接続ネジを回してロックします。

左右の接続ネジを押しながら回して、コネクタボックスを固定します。



○ 重 要

- ▶ コネクタボックスに周辺機器を取り付ける場合、および取り外す場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ▶ 本パソコンを持ち運ぶ場合は、接続ネジでコネクタボックスを必ず固定してください。パソコン本体およびコネクタボックスのコネクタが破損します。

コネクタボックスを取り外す

ここでは、コネクタボックスの取り外しについて説明します。

⚠ 警 告

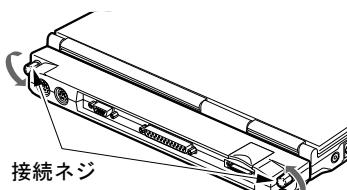


- コネクタボックスの取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

1 コネクタボックスに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。

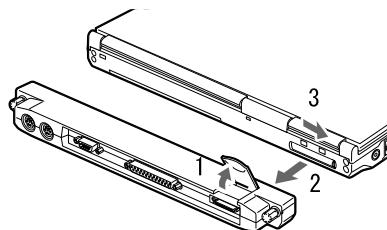
2 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

3 接続ネジをゆるめてロックを外します。



4 コネクタボックスを取り外します。

コネクタボックス取り外しレバーを起こして (1) コネクタボックスを取り外し (2) 、コネクタカバーを閉じます (3)。



マウスの接続

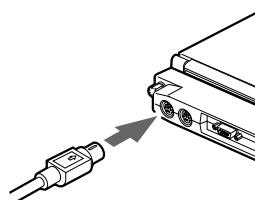
本パソコンは、コネクタボックスのマウスコネクタに、PS/2 規格のマウスを接続することができます。

1 パソコン本体の電源を切ります。**2 コネクタボックスを取り付けます。**

「コネクタボックスを取り付ける」 (⇒ P.68)

3 マウスを接続します。

マウスをコネクタボックスのマウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が、上側になるように接続してください。



POINT

- ▶ スクロール機能付きマウス(Microsoft 社製の IntelliMouseTM など)をお使いになる場合は、BIOS セットアップの「ポインティングデバイス」 (⇒ P.95) を「構成 4」に変更してから、タッチパネルのドライバを削除する必要があります。『トラブル解決 Q&A』の「アプリケーションのインストールと削除」をご覧になり、「Fujitsu Touch Panel (PS/2)」を削除してください。タッチパネルのドライバを削除すると、タッチパネルはお使いになれません。
 - ▶ コネクタボックスをパソコン本体に接続している場合は、スタンバイ状態でマウスを接続することもできます。
 - ▶ クイックポイント IV と併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」 (⇒ P.95) で設定します。
- 「BIOS セットアップの操作のしかた」 (⇒ P.87)

テンキーボードの接続

本パソコンは、コネクタボックスの拡張キーボードコネクタに、PS/2 規格のテンキーボードなどを接続することができます。ここでは、テンキーボードを接続する場合について説明します。

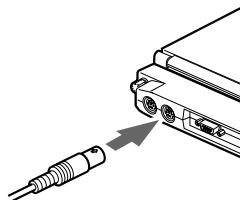
1 パソコン本体の電源を切ります。

2 コネクタボックスを取り付けます。

「コネクタボックスを取り付ける」(☞ P.68)

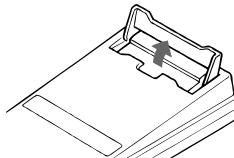
3 テンキーボードを接続します。

テンキーボードをコネクタボックスの拡張キーボードコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が上側になるように接続してください。



POINT

- ▶ テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。
- ▶ 「テンキーモードについて」(☞ P.24)
- ▶ テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。



- ▶ 拡張キーボードコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指ソフトキーボードも接続できます。
- ▶ 親指ソフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムの OAK V5.0 以降が必要です。

プリンタの接続

ここでは、パラレルポートにプリンタを接続する方法を説明します。

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

POINT

- ▶ プリンタを USB コネクタに接続することもできます。
「USB プリンタの接続」(☞ P.49)

必要なものを用意する

プリンタ	Windows98 で動作可能なプリンタを用意してください。
プリンタのドライバ	プリンタによっては、CD やフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類ある場合は、「Windows98 用」、「PC/AT 互換機用」、「DOS/V 用」などと表示されたものをお使いください。
プリンタケーブル	プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。
プリンタのマニュアル	プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。CD で見るマニュアルもあります。
コネクタボックス	パソコン本体背面に接続して使います。 プリンタをパラレルコネクタに接続する場合に必要です。

プリンタを接続する

⚠ 警告



- 感電
- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

⚠ 注意



- 故障
- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。

誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

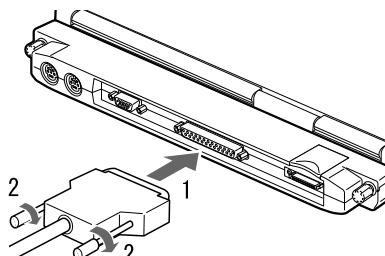
2 コネクタボックスを取り付けます。

「コネクタボックスを取り付ける」(⇒ P.68)

3 コネクタボックスのパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み(1)、プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定します(2)。



4 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。

5 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

6 パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。

7 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクやCDを使うことがあります。

プリンタを使うときの注意

- プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によってはプリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。その場合は、次の手順でドライバをインストールしてください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」の順にクリックします。

2 「プリンタの追加」をクリックします。

「プリンタの追加 ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。

POINT

- ▶ Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されることがあります。その場合は「OK」をクリックし、次に表示されるダイアログボックスで以下のように入力し、「OK」をクリックしてください。
c:\windows\options\cabs

- ご購入時のCD ドライブはE ドライブです。CDからプリンタ ドライバをインストールする場合、ドライブ名には「e」 と入力してください。

8 外部ディスプレイを接続する

CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。また、マルチモニタ機能を使用することもできます。

必要なものを用意する

外部ディスプレイ	「PC/AT 互換機」または「DOS/V パソコン」対応のものを用意してください。
ディスプレイケーブル	外部ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。外部ディスプレイの背面につながっていたり添付されています。 添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」と表示されたもので、外部ディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。
外部ディスプレイのマニュアル	外部ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイを接続する

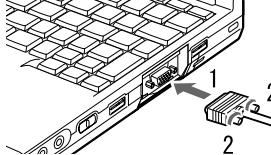
ここでは、パソコン本体右側面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告

-  感電
- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意

-  故障
- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1** パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。
 - 2** パソコン本体右側面の外部ディスプレイコネクタにディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み(1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します(2)。
- 
- 3** CRTディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
 - 4** CRTディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
 - 5** パソコン本体にACアダプタを取り付け、電源を入れます。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」(⇒ [P.77](#))

POINT

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、以下のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されるこの場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

ディスプレイの表示を切り替える

ここでは、接続した外部ディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

表示を切り替えるには、キーボードから切り替える方法と、画面のプロパティから切り替える方法の2つがあります。どちらの方法で切り替えてかまいません。

POINT

- ▶ ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
 - ・接続した外部ディスプレイで表示する
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイで同時に表示する

キーボードで切り替える

1 **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押します。

2つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示→液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示→外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

画面のプロパティで切り替える

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

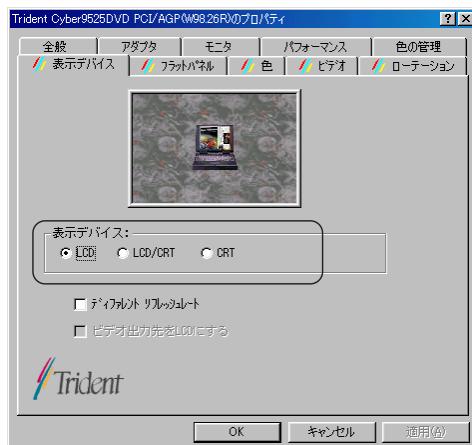
2 「設定」タブをクリックします。

3 「詳細」をクリックします。

4 「表示デバイス」タブをクリックします。

5 表示するディスプレイを選びます。

- 液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示するときは、表示デバイスの「LCD/CRT」をクリックし、 にします。
- 液晶ディスプレイのみ、または外部ディスプレイのみで表示するときは、表示デバイスの「LCD」または「CRT」をクリックし、 にします。



(画面は機種や状況により異なります)

POINT

- 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP (W98.26R) のプロパティ」ダイアログボックスでは、「外部ディスプレイ」を「CRT」、「液晶ディスプレイ」を「LCD」と表示しています。

6 「適用」をクリックします。**7 表示デバイスが準備されていることを確認するダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。****8 「確認」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。**

POINT

- 「OK」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。手順5からやり直してください。

9 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP(W98.26R) のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。**10 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。**

△ 重要

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。
 - 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、**[Fn]** を押しながら **[F10]** を押して、表示先を切り替えてください。
 - 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、リフレッシュレートを変更してください。
「リフレッシュレートを変更する」(☞▶ P.81)
- ▶ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、本パソコンの電源を切ったあと、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更した際に、画面が表示できなくなる場合があります。

○ POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、BIOS セットアップの「ディスプレイ」(☞▶ P.95) の項目を「外部ディスプレイ」または「同時表示」に設定してください。
「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞▶ P.87)
- ▶ Windows98 が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows98 で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
- ▶ マルチモニタ機能については、「マルチモニタ機能を使う」(☞▶ P.82)をご覧ください。

外部ディスプレイの解像度と発色数について

ここでは、外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数

表示できる解像度と発色数の組み合わせは以下のとおりです。

この解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと 外部ディスプレイで同時表示	外部ディスプレイで表示
640 × 480 ドット	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
800 × 600 ドット	256 色※1 High Color (16 ビット) ※1 True Color (32 ビット) ※1 ※2	256 色 High Color (16 ビット) True Color (32 ビット)
1024 × 768 ドット ※4	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) ※6	256 色 High Color (16 ビット) True Color (24 ビット) ※6
1280 × 1024 ドット ※5	256 色※3	256 色

※1 640 × 480 ドットまたは 800 × 600 ドットの領域がディスプレイ中央に表示されます。

※2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。

※3 本パソコンでは仮想スクリーンモードでの表示となります。

1280 × 1024 ドットに設定すると、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに 1024 × 768 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

※4 モニタを SuperVGA 1024 × 768 以上にする必要があります。

「解像度や発色数を変更する」(☞ P.41)

※5 モニタを SuperVGA 1280 × 1024 以上にする必要があります。

「解像度や発色数を変更する」(☞ P.41)

※6 本モードは、ディスプレイドライバをアップデートした場合のみサポートします。ただし、アップデートするとローテーション機能(☞ P.43)は使用できなくなります。ドライバのアップデートについては、(☞)「アプリケーション CD2」の「UPDATE」フォルダの中の readme.txt をご覧ください。

本モードに切り替えると、より鮮明な画像（高画質）になります。デジタルカメラの写真など、静止画像をご覧になるとご利用ください。ただし、本モードは解像度と発色数を重視した画面モードのため、描画パフォーマンスは下がります。

重要

- ▶ 表示できる解像度はお使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- ▶ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示では、外部ディスプレイは液晶ディスプレイの表示と同一になりますが、外部ディスプレイによっては正しく表示されないことがあります。外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ▶ 発色数を True Color (24 ビット) に設定した場合は、マルチモニタ機能(☞ P.82)を使用できません。
- ▶ ドライバをアップデートした場合は、ローテーション機能(☞ P.43)を使用できません。

POINT

- ▶ High Color(16ビット)は65536色、True Color(24ビット)およびTrue Color(32ビット)は1677万色です。

外部ディスプレイの解像度と発色数を変更する

外部ディスプレイの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「解像度や発色数を変更する」(⇒ P.41) の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- 手順1の前に外部ディスプレイ表示に切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(⇒ P.77)
- 手順10「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください」というダイアログボックスでは、外部ディスプレイのマニュアルをご覧になり、お使いの外部ディスプレイに合ったモデルを選んでください。合うモデルがないときは、手順10の設定に従ってください。

POINT

- ▶ 変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートを変更する

外部ディスプレイに合ったリフレッシュレートに変更すると、画面のちらつきを抑えることができます。

重 要

- ▶ リフレッシュレートは、外部ディスプレイ表示のときに変更できます。液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示のときは、「表示デバイス」タブの「ディファレントリフレッシュレート」をクリックしてにすると、「アダプタ」タブで外部ディスプレイのリフレッシュレートを変更できます。ただし、解像度によっては変更できない場合もあります。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイにより対応しているリフレッシュレートは異なります。
外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- ▶ リフレッシュレート
1秒間に画面を書き替える回数を周波数(単位はHz)で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります。

1 外部ディスプレイ表示に切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」(⇒ P.77)

2 デスクトップの何もないとこを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「アダプタ」タブをクリックします。
- 6 「リフレッシュレート」の▼をクリックして、リフレッシュレートを選択し、「適用」をクリックします。



(画面は機種や状況により異なります)

- 7 「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP(W98.26R) のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

マルチモニタ機能を使う

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、プライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンドリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

セカンドリアダプタを設定する

重要

- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- ▶ 現在、画面が表示されているディスプレイがプライマリアダプタになります。ただし同時表示の場合は、液晶ディスプレイがプライマリアダプタになります。

- ▶ 「1」はプライマリアダプタ、「2」はセカンダリアダプタを示します。
- ▶ 発色数を True Color (24 ビット) に設定した場合は、マルチモニタ機能を使用できません。
- ▶ マルチモニタ使用時は、発色数を True Color (24 ビット) に設定できません。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

 **POINT**

- ▶ マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

2 「設定」タブをクリックし、「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。

「モニタ #2」ダイアログボックスが表示されます。

3 「はい」をクリックします。

4 セカンダリアダプタの解像度と発色数を設定します。

「解像度や発色数を変える」の手順 15 (…▶ [P.42](#))

5 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

設定を確認するダイアログボックスが表示された場合は、「OK」または「はい」をクリックしてください。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する 2 つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

1 セカンダリアダプタを設定します。

「セカンダリアダプタを設定する」 (…▶ [P.82](#))

2 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

5 「OK」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数

次の組み合わせで選択できます。

次の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	プライマリの解像度	セカンダリの解像度			
		640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024
High Color (16ビット)	640 × 480	○	○	○	×
	800 × 600	○	○	○	×
	1024 × 768	○	○	×	×
True Color (32ビット)	640 × 480	○	×	×	×

重要

▶ マルチモニタ機能の注意

- ローテーション機能使用中は、マルチモニタ機能を使用できません。また、マルチモニタ機能を使用時にローテーション機能を使用しないでください。マルチモニタ機能を使用中にローテーション機能を使用すると、画面は回転せず、マルチモニタ機能を終了できなくなります。この場合は、本パソコンを再起動してください。
- 2つのディスプレイにまたがるウィンドウがあるときは、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
- セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーションを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。アプリケーションおよび Windows98 の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - 一部のスクリーンセーバー
 - 動画再生画面のフルスクリーン表示
- 発色数を True Color (24ビット) に設定した場合は、マルチモニタ機能を使用できません。

▶ アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」→「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

▶ 発色数についての注意

- プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
- High Color または True Color に設定してください。256色に設定すると、正しく表示されないことがあります。
- セカンダリアダプタは 256色に設定できません。

▶ 解像度についての注意

- プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。

第3章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためのパスワードの設定方法についても説明しています。本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、設定を変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

1 BIOS セットアップとは	86
2 BIOS セットアップの操作のしかた	87
3 ご購入時の設定に戻す	92
4 メニュー詳細	93
5 BIOS のパスワード機能を使う	102
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	105

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、以下の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

◀ 重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（ P.87）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

○ POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST：Power On Self Test）といいます。

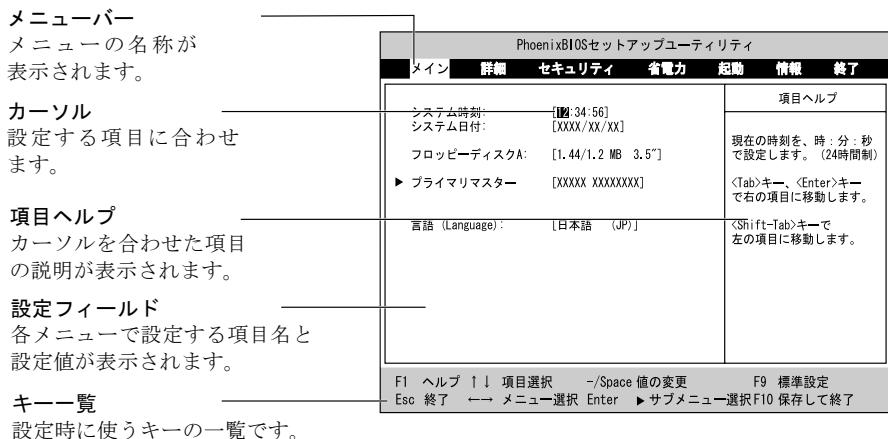
2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

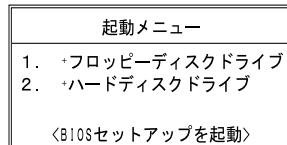
- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LCD (⇒ P.11) の  およびアクセスランプ (⇒ P.17) が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、 を押してください。
BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、以下のとおりです。



POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows98 が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で  を押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、「BIOS セットアップを起動」を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3 または を押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4 設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(…▶ P.91)

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「変更内容を取り消す」(…▶ P.90)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(…▶ P.92)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは を押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

↑、↓	設定する項目にカーソルを移動します。
[Fn] + [Pg Up]	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
[Fn] + [Pg Dn]	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
[Fn] + [Home]	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
[Fn] + [End]	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
[F5]、[←]	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
[F6]、[→]	各項目の設定を次の設定値に変更します。
[←]、[→]	メニューを切り替えます。
[Enter]	印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
[F9]	標準設定値を読み込みます。
[F10]	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
[Esc]、[Alt] + [X]	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
[F1]、[Alt] + [H]	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、[Esc] を押せば閉じます。

POINT

- ここでいう [] は [] + [] のことです。
- 「+」でつながれたキーは、前半のキーを押しながら後半のキーを押す動作を表しています。たとえば、[Alt] + [X] は、[Alt] を押しながら [X] を押す動作を表しています。

変更内容を取り消す

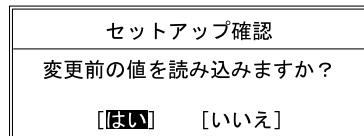
設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



3 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

POINT

- ▶ サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 次の操作をすると、設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。
 - 1 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
 - 2 **[←]** または **[→]** で「いいえ」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

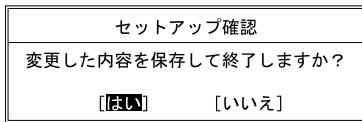
変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



3

3 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。
「変更内容を取り消す」(☞ P.90)
- ▶ 次の操作をすると、いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。
 - 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 - 2 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

3 ご購入時の設定に戻す

「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。
すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

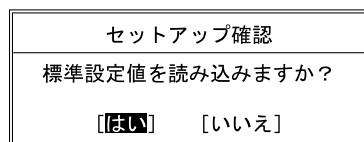
1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(☞▶ P.87)

2 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

3 **[↑]** または **[↓]** を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

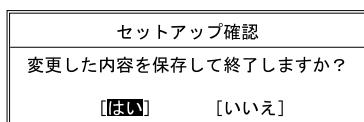


4 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

5 **[↑]** または **[↓]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



6 **[←]** または **[→]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 保存後に設定操作を続けたいときは、手順 5 で「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押してください。

4 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■ システム時刻

■ システム日付

■ フロッピーディスク A

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

■ プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

POINT

- 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(参照 P.101) を実行した直後は、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- タイプ

POINT

- 通常は「自動」に設定してください。

- シリンダ数
- ヘッド数
- セクタ数

POINT

- シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違って設定すると、正常に動作しなくなります。
- 最大容量が 8.4GB を超えるハードディスクを取り付け、「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

■ 言語 (Language)

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、接続した周辺機器の設定などを行います。

- プラグアンドプレイ対応 OS
- デバイス設定の保護
- シリアル／パラレルポート設定

POINT

- ▶ I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てるとき、項目名の左に*が表示されます。ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。

- シリアルポート
 - I/O アドレス
 - 割り込み番号
- 赤外線通信ポート

赤外線通信ポートを使用するかどうかを設定します。

 - モード

POINT

- ▶ 「FIR」に設定する場合は、高速モードに対応した赤外線通信用ソフトが必要です。また、FIR 用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。
- I/O アドレス
- 割り込み番号
- I/O アドレス
- DMA チャネル

● パラレルポート

• モード

「ECP」は、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECP モード用の「DMA チャネル」も設定してください。

• I/O アドレス

• 割り込み番号

• DMA チャネル

通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートの FIR 用に割り当てられています。

■ キーボード／マウス設定

● 起動時の Numlock 設定

● ホットプラグ

POINT

- ▶ マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をスタンバイ状態にして接続してください。
- ▶ ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
- ▶ 拡張キーボード／マウスコネクタに、『パーコードリーダ (FMV-BCR101)』、『パーコードタッチリーダ (FMV-BCR201)』、『磁気カードリーダ (FMV-MCR101)』などの入力装置を接続する場合は、「使用しない」に設定してください。また、「省電力モード」(☞ P.98) の設定も「使用しない」に設定してください。

● ポイントティングデバイス

• タッチパネル

• クイックポイント

• 外部 PS/2 マウス

POINT

- ▶ Microsoft 社製の IntelliMouse™ は、設定が「構成 4」の場合のみ使用できます。

■ ディスプレイ設定

● ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」でも切り替えることができます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(☞ P.77)

- 全体表示

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、[Fn] を押しながら [F5] を押すことで表示の切り替えを行うことができます。

■ その他の内蔵デバイス設定

- フロッピーディスクコントローラ
- IDE コントローラ

■ PCI 設定

- 割り込み番号の予約

特定の割り込み番号を PC カードに割り当てたい場合に、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようにになります。

- IRQ 3 ~ IRQ 15

■ USB 設定

- USB フロッピーディスク

■ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

[Enter] を押すと、イベントログメッセージが表示されます。

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、下記のメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエーセンターにご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。
 - 訂正不可能なメモリエラー : XXXX
 - POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX

- イベントログ
 - システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■ 管理者用パスワード

管理者（本パソコンをご購入になった方など）用のパスワードの設定状態が表示されます。

■ ユーザー用パスワード

ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態が表示されます。

■ 管理者用パスワード設定

管理者用パスワードを設定します。

■ ユーザー用パスワード設定

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ ユーザー用パスワード文字数

「管理者用パスワード設定」が設定されている場合に設定できます。「ユーザー用パスワード設定」で設定するパスワードの最低文字数を設定します。

POINT

- ▶ 本設定はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■ 起動時のパスワード

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

■ 取外し可能なディスクからの起動

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

■ フロッピーディスクアクセス

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

POINT

- ▶ 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS (WindowsNT など) では、正しく動作しません。
- ▶ FDD ユニット (USB) へのアクセス制限はできません。

■ ハードディスクセキュリティ

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

- プライマリマスター

本パソコンの内蔵ハードディスクに対応します。

POINT

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

■ 所有者情報

「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

■ ハードディスク起動セクタ

POINT

- ▶ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ▶ この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS(WindowsNTなど)では、正しく動作しません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ▶ 項目によっては設定が無効になることがあります。詳細は各項目の説明をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップでは「スタンバイ」のことを「サスPEND」、「休止状態」のことを「Save To Disk」と表記しています。

■ 省電力モード

本項目は、本パソコンでは使用しません。

- ハードディスク省電力

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「ハードディスクの電源を切る」の設定が有効になります。

● ディスプレイ省電力

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「モニタの電源を切る」の設定が有効になります。

● スタンバイタイマー

本項目は、本パソコンでは使用しません。

● サスペンドタイマー

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「システムスタンバイ」の設定に従って、スタンバイします。

■ サスペンド動作

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の「電源ボタン」の設定が有効になります。
- ▶  を押しながら SUS/RES スイッチを押した場合は、本項目を「サスペンド」に設定しても、本パソコンは常に「Save To Disk」の動作を行い、休止状態になります。
- ▶ 以下の場合は、本項目を「Save To Disk」に設定したり、「自動 Save To Disk」の項目を「1 時間後に移行する」に設定しても、本パソコンは「サスペンド」の動作を行い、スタンバイ状態になります。
 - Save To Disk 領域があらかじめ作成されていないとき。
 - Save To Disk 領域は作成されているが、「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」が「使用する」に設定されているとき。
 - LOW バッテリ状態で自動的にスタンバイするとき。

● 自動 Save To Disk

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。

■ モデム着信によるレジューム

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、通信ソフトの設定が有効になります。

■ 時刻によるレジューム

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目が無効となり、「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

■ レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定した場合は、レジュームする時刻を時：分：秒（24時間制）で設定します。

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目が無効となり、「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

■ 詳細設定

- サスPEND／レジュームスイッチ
- カバークローズ サスPEND

POINT

- ▶ Windows98 起動時は本項目は無効となり、「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。

- カバーオープン レジューム
- シリアルマウス

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■ 高速起動

■ 起動時の自己診断画面

■ 起動デバイスの優先順位

起動デバイスの優先順位を設定します。 または  で順位を変更するデバイスを選択し、 を押します。 を押すと選択したデバイスがリストの上側に移動し、 を押すとリストの下側に移動します。

- フロッピーディスクドライブ
フロッピーディスクから起動します。
- ハードディスクドライブ
ハードディスクから起動します。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- BIOS 版数
- BIOS 日付
- BIOS 領域
- CPU タイプ
- CPU 速度
- L1 キャッシュ
- L2 キャッシュ
- 全メモリ容量
 - 搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。
- 標準メモリ
 - 本パソコンに標準で取り付けられているメモリ (RAM) の容量が表示されます。
- メモリスロット
 - 拡張RAMモジュールスロットに取り付けられているメモリ (RAM) の容量が表示されます。
 - メモリを取り付けていないときは「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

- 変更を保存して終了する
- 変更を保存せずに終了する
- 標準設定値を読み込む
- 変更前の値を読み込む
- 変更を保存する

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためにパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード

本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

- ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。
「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、以下のとおりです。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」（[P.87](#)）

2 セキュリティメニュー（[P.97](#)）の「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」を選択して [Enter] を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。[_____]
新しいパスワードを確認して下さい。[_____]

または

ユーザー用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。[_____]
新しいパスワードを確認して下さい。[_____]

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、一般利用者用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」(⇒ P.97) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら [Enter] を押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

※ 重要

- 管理者用パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して [Enter] を押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 [Enter] を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。[Enter] を押して、手順 3 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場所にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、[Enter] を押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- Windows98 の場合、「電源の管理のプロパティ」で、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効に設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

※ 重要

- ハードディスクセキュリティ (⇒ P.98) を設定したハードディスクを他のパソコンに接続して使用する場合も、本パソコンで設定した管理者用パスワードもしくはユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるときには、そのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを変更する／削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 「パスワードを設定する」の手順 1～2 (⇒ P.102) を行います。
- 2 設定してあるパスワードを入力し、[Enter] を押します。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 3 8 行までの新しく設定したいパスワードを入力し、[Enter] を押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- 管理者用パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

- 4 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して [Enter] を押します。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

- 5 [Enter] を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。[Enter] を押して、手順 3 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3～4 で何も入力せずに、[Enter] を押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外の時は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順にしたがって処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(…▶ [P.92](#))

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号 (IRQ) を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST (⇒ [P.86](#)) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- <ESC> キー：自己診断画面／<F12> キー：起動メニュー／<F2> キー：BIOS セットアップ
起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に [Esc] を押すと起動時の自己診断画面が表示され、[F2] を押すと BIOS セットアップが起動します。また、[F12] を押すと「起動メニュー」画面 (⇒ [P.87](#)) が表示されます。
- <F12> キー：起動メニュー／<F2> キー：BIOS セットアップ
起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に [F12] を押すと「起動メニュー」画面 (⇒ [P.87](#)) が表示され、[F2] を押すと BIOS セットアップが起動します。
- BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、クイックポイントIVが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、[Esc] を押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」(⇒ [P.100](#)) の項目を「表示する」に設定してください。

エラーメッセージ

● システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx

誤りビット : zzzz zzzz

システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● 拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx

誤りビット : zzzz zzzz

拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● メモリキャッシュのエラーです。--キャッシュは使用できません。

キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボードコントローラのエラーです。

キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● フロッピーディスク A のエラーです。

フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。

もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

● ディスクエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切つてしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は **[F1]** を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は **[F2]** を押してください。

- <F1> キー：継続／<F2> キー：BIOS セットアップ

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。**[F1]** を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、**[F2]** を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- 日付と時刻の設定を確認してください。

日付と時刻の設定値が不正です。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- パスワードで保護されています。: ハードディスク n

取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。

- サポートされないタイプのメモリが検出されました。

本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- メモリタイプのエラーです。 : SPD が 66MHz のメモリを示しています。
本システムには 100MHz のメモリが必要です。電源を落としてください。
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- NVRAM データが正しくありません。
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。
システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
メモリ速度 100MHz で起動しますか?
<Y>を押すとこのまま起動し、<N>を押すとシステムを停止します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
[N] を押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。
メモリ速度 100MHz で起動します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
- ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
- ハードディスクが検出されませんでした。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- 不明な Save To Disk エラーが発生しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスクからの読み取りに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスクへの書き込みに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。

Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(…▶ [P.114](#))

- Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

- Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

- Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、□などを押してください。

- Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、□などを押してください。

- Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

POINT

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

第4章

技術情報

本パソコンのお手入れや注意事項などを記載しています。

1 ハードウェアのお手入れ	112
2 Save To Disk 領域	114
3 赤外線通信について	118
4 省電力の設定	121
5 外部ディスプレイの走査周波数	125
6 音量の設定について	127
7 その他の注意事項	129

1 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠ 警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れます。ヘッドが汚ると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3カ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ
商品番号：0212116
(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

お手入れのしかた

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力して **[Enter]** を押します。
c:\fjuty\clndsk 0
「clndsk」と「0」の間は、 を1回押してください。「0」は数字の「ゼロ」です。
- 3 クリーニングフロッピーをセットして **[Enter]** を押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

廃棄について

本パソコンの液晶ディスプレイ (LCD) 内のバックライト (蛍光管) の中には、水銀が含まれています。また、本パソコンはリチウム電池を、またバッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、火中に投じると破裂のおそれがあります。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

2 Save To Disk 領域

Save To Disk 領域について

休止状態では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ休止状態用の保存場所が確保されています。この休止状態用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなった場合は、休止状態にできなくなります。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量＝メインメモリ容量 + (ビデオメモリ容量／その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量 (増設時)	ビデオメモリ容量／その他
約 196MB	192MB	約 4MB

POINT

- ▶ Save To Disk 領域には「ファイル形式」と「区画設定」があります。本パソコンご購入時は、Save To Disk 領域が「区画設定」で作成されています。
- ▶ 「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使うことはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成している場合は、「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。
- ▶ Save To Disk 領域には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業容量が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

Save To Disk 領域を変更する

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使用します。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に入っています。

また、Windows98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されると正しく動作しません。

PHDISK ユーティリティを起動する

1 作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をフロッピーディスクユニットにセットします。

2 MAIN スイッチを ON にします。

しばらくすると、画面に「Windows98 リカバリメニュー」が表示されます。

3 **[5]** を押して、「5. 終了」を選びます。

「A:>」と表示されます。

4 「A:>」に続けて、次のコマンドを入力し、**[Enter]** を押します。

PHDISK {オプション}

■ コマンド

PHDISK {オプション}

```
└── /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)
  /INFO
  /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)
  /REFORMAT /PARTITION
```

PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

■ オプション

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/の前は、 を 1 回押してください。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

● 作成 : /CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)

Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使用します。

/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。

/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。

Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。

区画設定で Save To Disk 領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つかった場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

● 削除 : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)

すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。

/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。

/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。

Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。

● 再フォーマット : /REFORMAT /PARTITION

区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。

このオプションは、休止状態にしていて、読み出しえラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つかった場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

● 詳細情報 : /INFO

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

- 表示例 : 区画設定で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報 :

開始セクタ :XXXXXX (ヘッド X、シリンド XXX、セクタ X)

全容量 :XXXXXX バイト

現在の状態 :

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

- 表示例 : ファイル形式で作成した場合

Save To Disk 領域詳細情報 :

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C:\SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読み取り専用です。

現在の状態 :

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

POINT

- ▶ Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。
- ▶ 区画として Save To Disk 領域を作成する場合は、FDISK ユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に作成してください。
- ▶ 「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。
- ▶ Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。
再起動せずに休止状態にすると、正しく動作しない場合があります。
- ▶ 区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。
- ▶ 作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

3 赤外線通信について

赤外線通信の概要

赤外線通信とは、本パソコンの赤外線通信ポートを使用して、赤外線通信機能をもった他のパソコンと、ケーブルを接続することなく通信できる機能です。

赤外線通信を行う場合は、互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能に設定し、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は20～50cmの範囲内での使用をお勧めします。

赤外線通信をするときの注意

- 赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- 互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- データの転送中に互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗する場合があります。
- 次のような場合は、正常に通信ができないことがあります。
 - ・互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていない場合
 - ・互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物がある場合
 - ・テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
 - ・直射日光や蛍光燈・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっている場合
 - ・赤外線通信ポートが汚れている場合

Intellisync

本パソコンには、赤外線通信用のアプリケーションとして、「Intellisync」（インテリシンク）がインストールされています。Intellisyncを使うことにより、2台のパソコンを赤外線通信アダプタやケーブルで接続し、ファイルの転送などを簡単にを行うことができます。

なお、Intellisyncを使った通信については、IntellisyncのPDFマニュアルをご覧ください。

POINT

- ▶ Intellisyncでは、Zaurusとの通信はサポートされていません。

転送速度について

Intellisync を使用すると、最大 4Mbps の速度で通信できます。

転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- 115Kbps のパソコンと通信する場合

自動的に 115Kbps モードで接続されます。

- 4Mbps のパソコンと通信する場合

自動的に 4Mbps モードで接続されます。

本パソコンで Intellisync を使う前に

Intellisync をお使いになる前に、次の項目の設定を確認してください。

■ Windows98 の標準の赤外線デバイスを使用不可の状態にする

次の手順で Windows98 の標準の赤外線デバイスの設定を確認し、必要であれば変更してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (赤外線モニタ) をクリックします。
- 3 「オプション」タブをクリックします。
- 4 「赤外線通信を使用可能にする」が□になっていることを確認します。
 になっているときはクリックして□にします。
- 5 「OK」をクリックします。

■ BIOS セットアップの設定を確認する

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。

うまく通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「シリアル／パラレルポート設定」で、「赤外線通信ポート」(⇒ P.94) の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(⇒ P.87)

- 赤外線通信ポート : 使用する
- モード : FIR
- I/O アドレス : 2E8-2EF
- 割り込み番号 : IRQ 3
- I/O アドレス : 118-11F
- DMA チャネル : DMA 3

■ コンピュータ名を変更する

「Intellisync」では、同じコンピュータ名どうしで通信を行うことができません。

次の手順で通信相手のコンピュータ名を確認し、必要であればコンピュータ名を変更してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intellisync」→「接続設定マネージャ」の順にクリックします。

「使用許諾同意書」が表示されます。

表示されないときは、手順3へ進んでください。

2 「承諾する」をクリックします。

「はじめに－接続設定マネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「閉じる」をクリックします。

「接続設定マネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「識別」タブの「コンピュータ名」を確認し、必要であれば変更します。

5 「OK」をクリックします。

制限事項

- Windows98 を終了する前に、必ず Intellisync を先に終了させてください。
- データの通信中に赤外線通信ポートをふさぐなどして通信エラーが発生した場合は、次のようにしてください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
 - 1 パソコン本体の電源を切り、MAIN スイッチを OFF にします。
 - 2 10 秒ほど待ってから、MAIN スイッチを ON にします。
 - 3 Intellisync を起動します。
- Intellisync のシンクロナイズ機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しない場合があります。
- 「ファイル転送」機能のツールバーにある「一覧」のバルーンヘルプは表示できません。
- 赤外線通信中は、「接続設定マネージャ」ダイアログボックスの「ローカルデバイス」タブの赤外線のプロパティを開いて「IR ウィザード」を行わないでください。
- 「TranXit」がインストールされている機種に「Intellisync」を上書きインストールした場合、表示されるウィンドウ内に「Transit」と誤記表示されます。
- ドライブとして割り当てられたネットワークコンピュータ名やボリュームラベルに全角の文字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- 「ファイル転送」で接続先が表示されない場合は、次のように設定を変更してください。
 - 1 「ファイル転送」の「オプション」メニューから「設定」をクリックします。
 - 2 「セキュリティ」タブをクリックします。
 - 3 「リソースアクセス」の「ドライブの詳細」を選択します。

これで設定は終了です。

4 省電力の設定

ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリで使うときに節電されるように設定されています。節電の設定は、通常お使いになるうえでは、変更する必要はありません。変更する場合は、Windows98 の「電源の管理」または「PMS98」を使います。

「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときなどは、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで設定します。

「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスを表示する

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。

設定を変更する

POINT

- ▶ 変更のしかたや設定項目については、Windows98 のヘルプをご覧ください。

■「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定します。「ポータブル／ラップトップ」の「システムスタンバイ」でスタンバイするまでの時間を選択してください。
この場合、スタンバイしたときのメモリ内のデータなどの保存先は、システム RAM になります。

■「アラーム」タブ

バッテリの残量が少なくなったときにWindows98が出す警告についての設定をします。「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」をクリックして□にしないでください。バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

POINT

- ▶ バッテリの残量が約12%以下の状態を、「LOWバッテリ状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリ残量表示（状態表示LCDの□）が点滅します。

「LOWバッテリ状態」(☞ P.35)

■「詳細タブ」

SUS/RESスイッチやカバークローズスイッチを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します。ご購入時は、スタンバイするように設定されています。

POINT

- ▶ SUS/RESスイッチを押したときの状態は、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で設定できます。
- ▶ カバークローズスイッチを押したときの状態は、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で設定できます。
- ▶ 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「なし」に設定した場合は、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、パソコン本体の故障の原因となります。

■「休止状態」タブ

本パソコンを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックして□にすると、「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できます。ご購入時は、□に設定されています。

POINT

- ▶ 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスに「休止状態」タブが表示されない場合は、Save To Disk領域が削除されている可能性があります。Save To Disk領域を作成し直してください。

「Save To Disk領域」(☞ P.114)

PMSet98 で設定を変更する

PMSet98 には、現在の設定内容が表示される「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスを表示する

1 タスクバーの⑩または▣をダブルクリックします。

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



POINT

- ▶ タスクバーに⑩または▣が表示されていない場合は、「PMSet98」が起動していない。 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PMSet98」→「1.PMSet98」の順にクリックし、PMSet98を起動してください。
 - ▶ バッテリの充電中は、タスクバーの▣が点滅しています。
 - ▶ PMSet98は、Windows98を起動するたびに自動的に起動します。
- PMSet98を使用しない場合は、タスクバーの⑩または▣を右クリックし、「終了」をクリックします。

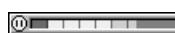
インジケータを表示する

インジケータには、バッテリ残量や電源の状態が表示されます。

- 1 「PMS98 のプロパティ」ダイアログボックスを表示します。
- 2 「インジケータ」タブをクリックします。
- 3 「インジケータを表示する」をクリックしてにします。
- 4 「表示位置」のをクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

 : ACアダプタ接続時

 : バッテリで使用時

POINT

- ▶ 表示位置について
 - ・インジケータと他のウィンドウが重なった場合は、インジケータが常に前面に表示されます。
 - ・インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
 - ・「自由位置〔ドラッグして位置決め〕」にすると、好きな位置に表示できます。
- ▶ 「種類」のをクリックすると、インジケータの種類を選べます。
- ▶ 電源の状態が表示されないときは、「PMS98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックしてにします。

設定を変更する

「PMS98 のプロパティ」ダイアログボックスで設定できる項目について説明します。

■ LCD バックライト

液晶ディスプレイの明るさ (LCD バックライト) を変更して、節電するかどうかを設定します。「電源依存」タブの「LCD バックライト」で、ACアダプタで使っているときとバッテリで使っているときを、別々に設定できます。明るさは8段階に設定でき、「暗」に近づけるほど節電できます。

設定を変更した場合は、「適用」または「OK」をクリックしてください。

POINT

- ▶ **[Fn]** を押しながら **[F6]** または **[F7]** を押しても、LCD バックライトの明るさを変更できます。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(☞ P.39)
- ▶ 本パソコンでは、「CPU クロック」の項目は設定できません。

5 外部ディスプレイの走査周波数

外部ディスプレイ表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選択することができます。

ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

「ディスプレイの表示を切り替える」 (☞ P.77)

解像度（ドット）	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64	60

同時表示の場合

「表示デバイス」タブで、「ディファレントリフレッシュレート」を有効にした場合
外部ディスプレイの走査周波数は以下のように設定できます。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64.0	60

「表示デバイス」タブで、「ディファレントリフレッシュレート」を無効にした場合
外部ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
48.4	60

POINT

- ▶ お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
「リフレッシュレートを変更する」(⇒ [P.81](#))

6 音量の設定について

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ダイアログボックスでそれぞれの音量を調節します。

「ボリュームコントロール」ダイアログボックスを表示するには、タスクバーの  (音量) をダブルクリックします。

POINT

- ▶ 項目名のあとに※が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。
- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 - 1 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 - 2 「表示するコントロール」で、項目をクリックして を付けます。
 項目が表示されるようになります。
- ▶ 解像度によっては、「ボリュームコントロール」ダイアログボックスなどの一部を表示できないことがあります。

再生時の音量設定

「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウィンドウで「再生」をクリックして にし、「OK」をクリックすると、再生時の音量を設定できます。

項目	ミュート	設定する音量
ボリュームコントロール	×	パソコン全体の音量
WAVE	×	Wave ファイルの音量
SW Synth	×	(Windows.WDM 標準の) ソフトウェア MIDI の音量
3D Depth ※	○	3D 効果の調整
ZV ※	○	未使用
CD プレーヤー※	○	未使用
ライン入力※	○	未使用
マイク	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
Phone	×	モデムの音量

POINT

- ▶ ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。

録音時の音量設定

「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウィンドウで「録音」をクリックして  にし、「OK」をクリックすると、録音時の音量を設定できます。

項目	選択	設定する音量
モノラルミックス※	×	再生音全体（モノラル）の録音音量
ステレオミックス※	×	再生音全体（ステレオ）の録音音量
ZV ※	×	未使用
CD プレーヤー	×	未使用
ライン入力	×	未使用
マイク	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
Phone ※	×	モデムの録音音量

7 その他の注意事項

ポインティングデバイスについて

本パソコンのポインティングデバイスには、クイックポイントIV、タッチパネル、および外付けのPS/2規格のマウスの3種類があります。これらのポインティングデバイスを有効または無効にする設定は、BIOSセットアップの「ポインティングデバイス」(⇒ P.95)で行います。BIOSセットアップの設定とポインティングデバイスの関係は、次の表のとおりです。

ポインティングデバイスの種類	ポインティングデバイスの設定			
	構成1	構成2	構成3	構成4
タッチパネル	有効	有効	無効	無効
クイックポイントIV	有効	無効	有効	排他※
PS/2規格のマウス	無効	有効	有効	有効

※PS/2規格のマウスを接続している場合は無効、接続していない場合は有効です。

FDD ユニット (USB) / フロッピーディスクユニットについて

本パソコンには、FDD ユニット (USB) (親指シフトキーボードモデルは別売)、フロッピーディスクユニット (親指シフトキーボードモデルに添付) を接続できます。ここでは、これらのユニットを使用する場合について説明します。

● 親指シフトキーボードモデル以外をお使いの方

フロッピーディスクユニット (FMV-NFD324) を使用する場合は、別売のコネクタボックスが必要です。また、BIOS セットアップの次の項目の設定を変更してください。

- ・「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」: 1.44/1.2 MB 3.5"
- ・「詳細メニュー」の「その他の内蔵デバイス設定」の「フロッピーディスクコントローラ」: 使用する

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞ P.87)

● 親指シフトキーボードモデルをお使いの方

FDD ユニット (USB) (FMV-NFD51) を使用する場合は、BIOS セットアップの次の項目を変更してください。

- ・「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」: 使用しない
- ・「詳細メニュー」の「その他の内蔵デバイス設定」の「フロッピーディスクコントローラ」: 使用しない

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞ P.87)

この設定をすると、フロッピーディスクユニット (FMV-NFD324) が使用できなくなるので、「OASYS 文書フロッピイ」も使用できません。

POINT

- ▶ フロッピーディスクユニット (FMV-NFD324) が使用できるように BIOS セットアップの設定を変更する場合は、必ず FDD ユニット (USB) を取り外してからパソコン本体を再起動してください。
- ▶ Windows98 を MS-DOS モードで使用するときに FDD ユニット (USB) を使用したい場合は、次のようにしてください。
 - 1 FDD ユニットをパソコン本体に接続した状態で、パソコン本体の電源を入れます。
 - 2 「FUJITSU」のロゴマークの下に「<ESC> キー: 自己診断画面 / <F12> キー: 起動メニュー / <F2> キー: BIOS セットアップ」と表示されたら、[Ctrl] を押し続けます。
 - 3 [↑] [↓] を押して、「5.Command prompt only」を反転表示させ、[Enter] を押します。

索引

A

- AC (エーサー) アダプタ表示 20
Alt (オルト) キー 24
Application
 (アプリケーション) キー 24

B

- Back Space
 (バックスペース) キー 23
BIOS セットアップ 86
 - 画面 87
 - の各キーの役割 89
 - の設定を変更する 88
 - の変更内容を取り消す 90
 - を起動する 87
 - をご購入時の設定に戻す 92
 - を終了する 91
BIOS のパスワード機能を使う 102

C

- Caps Lock
 (キャップスロック) 英数キー 23
Caps Lock 表示 21
CCD カメラ接続スリット 13
CCD カメラを使う 55
CCD カメラを取り付ける 55
CD-ROM ドライブユニット 4
Ctrl (コントロール) キー 24

D

- DC-IN (ディーシーイン) コネクタ 14
Delete (デリート) キー 23

E

- End (エンド) キー 24
Enter (エンター) キー 23
Esc (エスケープ) キー 22

F

- FDD ユニット (USB) 17
Fn (エフエヌ) キー 24

H

- High Color (16 ビット) 40, 80
Home (ホーム) キー 23

I

- Insert (インサート) キー 23
Intellisync 118

L

- LAN (ラン) カード 58
LOW バッテリ状態 35

M

- MAIN (メイン) スイッチ 13

N

- Num Lock
 (ニューメリカルロック) キー 22
Num Lock 表示 21

O

- OADG キーボード 22

P

- Page Down (ページダウン) キー 23
Page Up (ページアップ) キー 23
PC (ピーシー) カード 58
 - アクセス表示 21
 - スロット 15
 - 取り出し/ロックボタン 15
 - をセットする 59
 - を使うときの注意 58
 - を取り出す 61
PHS (ピーイエチエス) 51
 - 接続カード 58
 - 接続用 USB ケーブル 52
 - を接続する 51
PIAFS (ピアフ) 52
PMSet98 123
POST (ポスト) 86

Print Screen	
(プリントスクリーン) キー	23
S	
Save To Disk 領域	114
Scroll Lock	
(スクロールロック) 表示	21
SCSI (スカジー) カード	58
Shift (シフト) キー	23
SUS/RES (サスレス) スイッチ	11, 27
SUS/RES (サスレス) 表示	20
T	
True Color	40, 80
U	
USB 機器	48
USB (ユーエスビー) コネクタ	13
USB マウス	48
W	
Windows (ウィンドウズ) キー	24
あ	
アクセスランプ	17
液晶ディスプレイ (タッチパネル)	10
液晶ディスプレイが開いているとき	28
液晶ディスプレイの明るさ	39
液晶ディスプレイの明るさを 変更する	39
エラーメッセージ	107
お手入れ	112
親指シフトキーボード	22
音量の設定	127
音量ボリューム	12
か	
カーソルキー	24
解像度	40, 80, 84
-を変更する	41
外部ディスプレイコネクタ	13, 75
外部ディスプレイの走査周波数	125
外部ディスプレイを接続する	75
拡張 RAM (ラム) モジュール	63
拡張キーボードコネクタ	18

拡張 RAM (ラム)	
モジュールスロット	16
各部の名称と働き	10
カバークローズスイッチ	11
管理者用パスワード	102
キーボード	11, 22
起動時の自己診断テスト	86
起動メニュー	100
休止状態	25, 30
クイックポイントIV	11
空冷用ファン	14
携帯電話	51
-接続用 USB ケーブル	52
-を接続する	51
コネクタボックス	18, 68
-接続コネクタ	16
-を取り付ける	68
-を取り外す	69
さ	
作業を再開する (レジューム)	28
充電する	32
周辺機器	46
終了メニュー	101
詳細メニュー	94
状態表示 LCD	11, 20
省電力の設定	121
省電力メニュー	98
情報メニュー	101
シリアルコネクタ	18
スタンバイ	25, 26
スタンバイ/休止状態	25
スピーカー	16
正常時のメッセージ	106
赤外線通信	118
-ポート	14
セキュリティメニュー	97
接続コネクタ	17, 18
-取り外しレバー	18
接続ネジ	18
走査周波数	125
た	
タッチパネル	10
ディスプレイの表示を切り替える	77
デジタル携帯電話接続カード	58
テンキーボードの接続	71

テンキーモード	24	メインメニュー	93
電源の管理	121	メッセージ一覧	105
盗難防止用ロック	13	メッセージが表示されたとき	105
な		メモリ	63
内蔵バッテリパック	16, 37	ーを取り付ける／取り外す	64
内蔵マイク	11	モジュラーコネクタ	14
は		モデム	4
ハードウェアのお手入れ	112	や	
ハードディスクアクセス表示	20	ユーザー用パスワード	102
廃棄	113	ら	
パスワード	102	ラッチ	11
ーを削除する	104	リフレッシュレートを変更する	81
ーを設定する	102	レジューム	28, 31
ーを変更する	104	ローテーション機能を使う	43
パソコン本体のお手入れ	112	わ	
発色数	40, 80, 84	ワンタッチボタン	11
ーを変更する	41		
バッテリ	32		
ー残量表示	20		
ー充電表示	20		
ー装着表示	20		
ーで使う	33		
ーの異常表示	34		
ーの残量表示	34		
ーの注意	36		
パラレルコネクタ	18		
半角／全角キー	23		
ファンクションキー	22		
プリンタの接続	49, 72		
プリンタを使うときの注意	74		
フロッピーディスクドライブ	17		
ーのお手入れ	112		
フロッピーディスク取り出しボタン	17		
フロッピーディスクユニット	17		
ー コネクタ	18		
ヘッドホン・ジャック	12		
ペン	11		
ポインティングデバイス	129		
ま			
マイクイン・ジャック	13		
マウスコネクタ	18		
マウスの接続	48, 70		
マルチモニタ機能	82		

MEMO

FMV-BIBLO MC4/45C

ハードウェアガイド

B5FH-0241-01-00

発行日 2000年5月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

